

「思いやり 支え合い 手と手をつなぐ 大家族たかはま」の
実現を目指して

第6次高浜市総合計画 基本計画【中期】

施策評価シート

〔平成28年度の取組みに対する評価〕



平成29年8月



目 次

1. はじめに

- (1) 「施策評価」(点検・確認)のねらいと実施方法 . . . 2
- (2) 基本計画[中期]の体系 . . . 6
- (3) 施策評価シート とりまとめ部署一覧 . . . 10

2. 「市民意識調査」「みんなで目指すまちづくり指標」結果

- (1) 基本計画の施策に対する「市民意識調査」結果 . . . 12
- (2) 「みんなで目指すまちづくり指標」一覧 . . . 14

3. 施策評価シート

- (1) 施策評価シートの見方 . . . 18
- (2) 施策評価シート

基本目標Ⅰ. みんなで考え みんなで汗かき みんなのまちを創ろう

- 目標(1) まちへの想いを育み、未来を切り開くチカラを高めます . . . 22
- 目標(2) 将来を見据えた計画的・効果的な財政運営を行います . . . 26

基本目標Ⅱ. 学び合い 力を合わせて 豊かな未来を育もう

- 目標(3) 人と学びの輪を広げ、まちのチカラを育みます . . . 30
- 目標(4) 学校・家庭・地域が連携を深め、12年間の学びや育ちをつなげます . . . 34
- 目標(5) 地域ぐるみで子育て・子育てを支えます . . . 38

基本目標Ⅲ. 明日を生み出すエネルギー やる気を活かせるまちをつくろう

- 目標(6) 産業を活性化して、まちを元気にします . . . 42
- 目標(7) みんなでまちをきれいにします . . . 46
- 目標(8) ハーモニーを奏でる快適な都市空間をつくります . . . 50
- 目標(9) 安全・安心が実感できる地域づくりを進めます . . . 54

基本目標Ⅳ. いつも笑顔で健やかに つながり 100 倍ひろげよう

- 目標(10) 一人ひとりを認め合い、その人らしく暮らせるまちづくりを進めます . . . 58
- 目標(11) 一人ひとりの元気と健康づくりを応援します . . . 62



1

はじめに



■ □ (1) 「施策評価」(点検・確認)のねらいと実施方法 □ ■

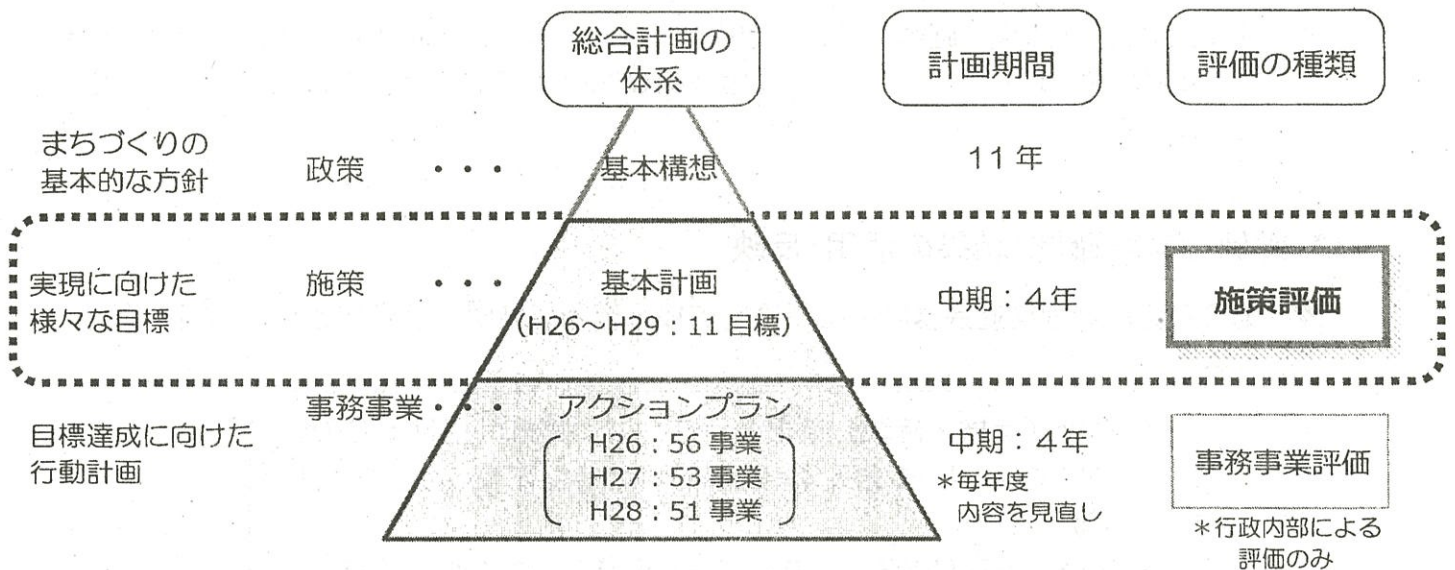
■ 目指す姿の実現に向けて、計画を着実に推進していくために…

- ◇ 総合計画は、みんなで力を合わせて高浜市をつくっていくために「こんなまちにしていこう!」というまちづくりの目標を掲げ、その実現に向けて必要な取組内容を盛り込んだ、「高浜市のまちづくりの設計図」です。
- ◇ 総合計画を実効性のあるものとしていくため、「自治基本条例」と「第6次総合計画」に「計画の進行管理」を位置づけ、PDCA サイクル*に基づき、目標の達成状況の点検・検証、事業の見直し・改善を行うことを宣言しています。

*「PDCA サイクル」… 計画(Plan)し、実行(Do)し、その結果を評価・検証(Check)し、改善策や次の施策に活かしていく(Action)こと。

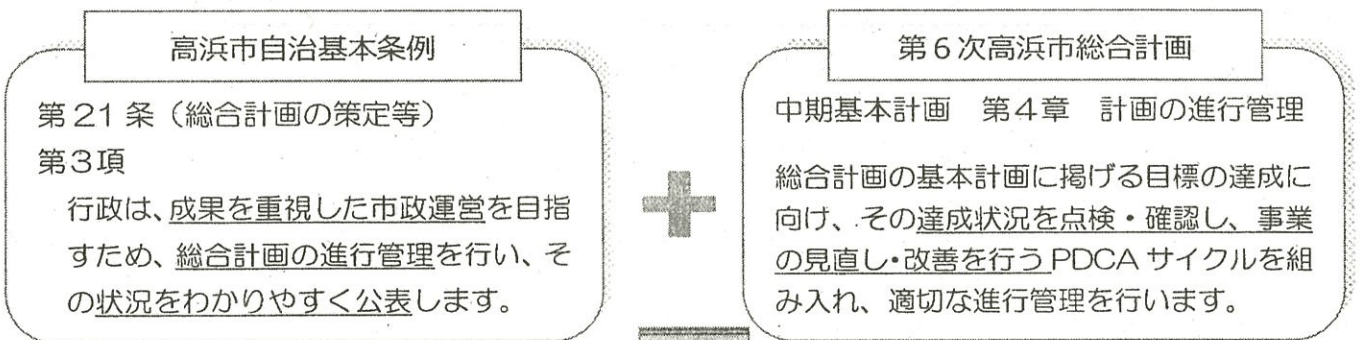


■ 総合計画の体系と評価(点検・確認)の種類



■ 「施策評価」(点検・確認)とは

◇ 「施策評価」(点検・確認)とは、目指す姿の実現に向けて、「中期基本計画」に掲げる11目標について様々な観点から点検・確認し、その結果を「アクションプラン」の見直しに反映させ、よりよい行政サービスにつなげることをいいます。



施策評価(点検・確認)のねらい

①緊張感を保ちながら、よりよい行政サービスにつなげるために ~市民目線を意識して~

総合計画に掲げた目指す姿の実現に向けて、「総合計画推進会議」や「市民意識調査」、日頃の業務を通じてなど、多様な方法で市民の皆さんの声をお聞きし、行政が行っている事業が市民のみなさんの役に立っているかどうかを、緊張感を保ちながら様々な観点から評価(点検・確認)し、事業の見直し・改善に反映させることにより、よりよい行政サービスにつなげる。

②市民とともに課題を考え、解決に向けて行動していくために ~情報共有と説明責任~

市民と行政が市政運営やまちづくりの課題などについて共通認識を持ち、解決策についてともに考え、目指す姿の実現に向けて行動できるように、中期基本計画に掲げる目標の推進状況、目標の達成状況などの点検・確認結果などを、市民にわかりやすく公表・情報を共有することにより、市政の透明性を高め、説明責任を果たす。

■ 2段階評価による実施

- ◇ 「施策評価」(点検・確認)は、行政内部による評価と、市民目線で取組内容や効果等を点検・確認していただく外部評価(第6次高浜市総合計画推進会議)の2段階で実施します。

■ 評価(点検・確認)結果の活用・反映

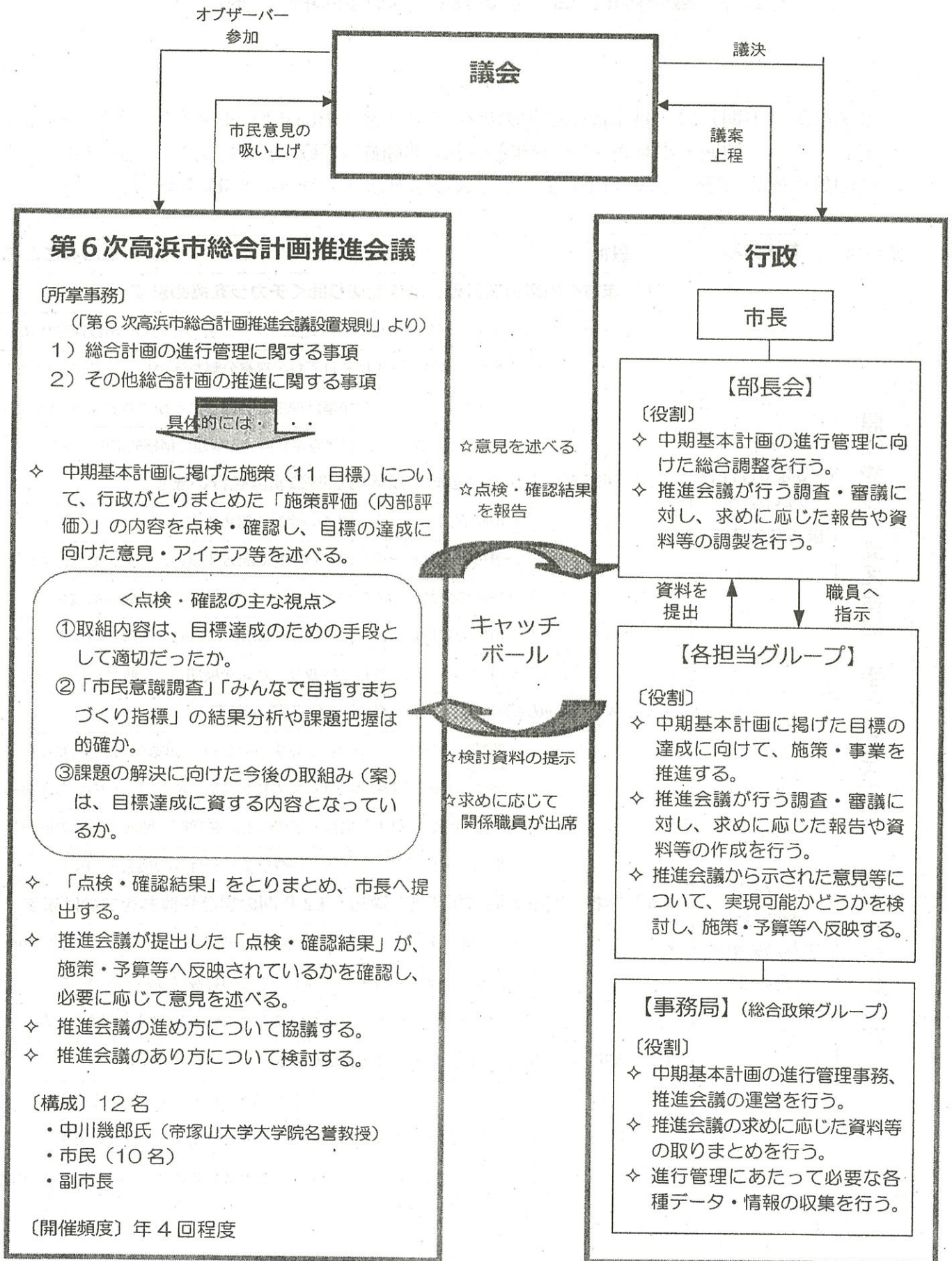
- ◇ 第6次総合計画推進会議による評価(点検・確認)結果をとりまとめ、市長へ提出します。

- ◇ 評価(点検・確認)結果のうち、すぐ実行に移せるものについては、平成29年度に実行中の事業に反映し、実行していく。
- ◇ 予算措置等が必要で、すぐに実行できないものは、平成30年度アクションプラン策定の際の検討材料として活用する。



評価(点検・確認)結果を公表することにより、市民と情報を共有し、説明責任を果たす。

第6次高浜市総合計画 中期基本計画 進行管理体制



■□ (2) 基本計画【中期】の体系□■

基本計画【中期】は、基本構想に定めた将来都市像「思いやり 支え合い 手と手をつなぐ」までに、市民・地域・事業者・関係機関・行政が協働して取り組むまちづくりの方向性やための具体的な方策・手段（こんなことに取り組みます）を44本掲げました。

都市像	基本目標	目標	こんなことに
思いやり 支え合い 手と手をつなぐ 大家族たかしま	I みんなで考え みんなで汗かき みんなの まちを創ろう	(1) まちへの想いを育み、未来を切り開くチカラを高めます	
			☆市民と行政がお互いにコミュニケーションをとり、市政運営やまち
			☆市民・地域・行政がそれぞれの得意分野を活かし、ともにまちづく
			☆“大家族”のみんなが幸せな生活を送ることができるよう、高浜市
			☆現場を第一に考え、問題意識を持って課題に積極的に取り組むため、
		(2) 未来を見据えた計画的・効果的な財政運営を行います	
		☆市税収入など、自主財源の確保に努めます。	
		☆限られた財源を重点的、効果的に配分するとともに、継続して行政	
		☆将来の公共施設のあり方について、市民とともに問題意識を共有し	
		☆市民の知りたい、市民に知ってもらいたい財政情報を積極的に提供	
	☆市民ニーズを反映した行政サービスを展開し、行政サービスの向上		
II 学び合い 力を合わせて 豊かな未来を 育もう	(3) 人と学びの輪を広げ、まちのチカラを育みます		
		☆地域の人たちがさまざまな先生役となり、地域の人たち（特に、子	
		☆地域ぐるみで未来に羽ばたく人材を育て、まちづくりの活力を高め	
		☆地域の良さ（歴史、文化、伝統など）を学び、地域の魅力の掘り起	
		☆誰もが楽しめるスポーツ・レクリエーションの機会をつくり、市民	
	(4) 学校・家庭・地域が連携を深め、12年間の学びや育ちをつなげます		
		☆幼稚園・保育園、小学校、中学校の垣根を越えて、教職員同士が現場	
	☆各園・各学校の特色や高浜市のまちの資源（ひと・もの・こと）を		
	☆高浜市として育てていきたい子どもの姿を策定し、地域ぐるみで子		
(5) 地域ぐるみで子育て・子育てを支えます			
	☆「高浜市子ども・子育て支援事業計画」を策定し、多様で柔軟な保		
	☆子どもの想いを理解し、子どもの視点に立って、成長を支援できる		
	☆世代間や異年齢同士の子どもの交流機会を豊かにし、子どもの自主		

「大家族たかはま」を実現するため、平成 26 年度（2014）から平成 29 年度（2017）目標を示したものです。目指すべき姿（個別目標）を 11 目標、目標値や目標を達成する

取り組みます！
づくりに関する情報発信・情報交換を活発に行います。
りに取り組んでいくための環境づくりを進めます。
で暮らす日常の「心地よさ」を高める取り組みを進めます。
職員力を高めます。
サービスが提供できるよう、既存サービスの見直しに取り組みます。
ながら、具体的な検討を進めます。
します。
につながるものについては、国・県・近隣市などをはじめとした関係機関との広域的な連携を行います。
ども)の成長に関わる機会を増やします。
ます。
こし・情報発信を進めます。
交流の場を充実します。
をふまえた情報交換を密にするとともに、子どもたちの交流を行うなど、発達段階に応じた教育を実践します。
活かした「高浜カリキュラム（生活・総合的な学習の時間）」を市内全園・全校で実施します。
どもの成長を見守り、手助けする教育基盤づくりを進めます。
育サービスの提供など、子育てニーズを適切なサービスに結びつける取り組みを進めます。
大人を増やす取り組みを行い、「地域の子育て力」を高めます。
性・社会性を育む居場所を充実します。

都市像	基本目標	目標	こんなことに	
思いやり 支え合い 手と手をつなぐ 大家族たかしま	Ⅲ 明日を 生み出す エネルギー やる気を 活かせる まちをつくろう	(6) 産業を活性化して、まちを元気にします		
			☆行政内部や関係機関との連携を強化し、新たな工業用地の創出や企	
			☆事業者・関係機関との連携を強化し、現場のニーズをふまえ、産業	
			☆コミュニティ・ビジネスの創業や持続的な経営に向けた支援を行い	
			☆自然・伝統文化・施設などの地域資源をつなぎ、市民・事業者・関	
			(7) みんなでまちをきれいにします	
			☆「高浜市みんなでまちをきれいにしよう条例」を推進します。	
			☆「高浜市ごみ処理基本計画」に基づき、紙ごみのリサイクルをはじめ	
			☆地域・学校・事業者・関係機関と連携した環境美化活動、環境保全	
		(8) ハーモニーを奏でる快適な都市空間をつくります		
		☆住環境やライフラインの整備など、都市空間の快適さや安全性、魅		
		☆安全・安心・便利に移動できるよう道路を整えるとともに、公共交		
		☆公園・緑地、街路樹や水辺空間などを地域の財産としてとらえ、地		
		(9) 安全・安心が実感できる地域づくりを進めます		
		☆市民・地域・事業者・関係機関と連携した総合的・機動的な防災体		
		☆防災教育や防犯講話などを通じて、「自らの安全は自ら守る(自助)」、		
		☆「高浜市みんなで犯罪のないまちにしよう条例」をふまえて、地域・		
		☆市民一人ひとり、特に高齢者や子どもの交通事故防止に向けた取組		
	(10) 一人ひとりを認め合い、その人らしく暮らせるまちづくりを進めま			
	☆地域福祉に対する理解を広め、困りごとを抱える方の支援などを行			
	☆障がい者が地域の中で交流できる場や活動機会を創出します。			
	☆判断能力が不十分な人の権利や生活を守るため、権利擁護センター			
	☆こども発達センターを充実し、子どもとその家族をより確かな形で			
	☆育児・介護・健康・生活困窮など、不安を抱えた方への総合的な相			
	☆高齢者の地域密着型施設や障がい者施設を、民間活力の導入により			
	☆災害時に備え、要援護者の実態把握と地域ぐるみの支援体制を構築			
	(11) 一人ひとりの元気と健康づくりを応援します			
	☆高齢者の閉じこもり予防、外出の機会となる居場所づくりと、担い			
	☆今後、増加が予測される認知症に対応するため早期発見、早期支援			
	☆運動機能や認知機能など市民一人ひとりのライフステージやニーズ			
	☆多様な医療ニーズに対応するため、かかりつけ医と病院の病診連携			
	Ⅳ いつも笑顔で 健やかに つながり 100倍 ひろげよう			

取り組みます！
業誘致を進めます。
の活性化、雇用の安定に向けた取り組みを進めます。
ます。
係機関とともにまちの魅力を高め、賑わいの創出や交流人口の拡大に向けた取り組みを行います。
め、ごみの減量化に取り組みます。
活動に取り組むこととし、不法投棄対策を積極的に進めます。
力を高める取り組みを進めます。
通の利用も促進します。
域と連携しながら、特性を活かした憩いの場づくりを進めます。
制を構築し、減災対策や実践を想定した取り組みを強化します。
「地域の安全は地域で守る（共助）」という意識を高める取り組みを強化します。
警察・関係機関と連携し、事件・事故の未然防止活動を推進します。
みを進めます。
す
うボランティアの発掘・養成や、継続的に活動できる場を創出します。
を設置し、適切な相談・支援が行える体制を整えます。
支えます。
談支援体制を整えます。
整備します。
します。
手としての活躍の場を創出する生涯現役のまちづくりを進めます。
を重点的に行う初期集中支援体制を構築します。
に応じた多様な健康づくり、介護予防や認知症予防のプログラムを構築します。
の促進により地域医療を充実します。

■ □ (3) 施策評価シート とりまとめ部署一覧 □ ■

◎=とりまとめグループ

<基本目標Ⅰ>

みんなで考え
みんなで汗かき
みんなのまちを
創ろう

企画部長 神谷美百合
総務部長 内田徹

目標 (1) まちへの想いを育み、未来を切り開くチカラを高めます

◎企画部 総合政策グループ (GL 野口恒夫)
企画部 人事グループ (GL 杉浦崇臣)
総務部 行政グループ (GL 山本時雄)

目標 (2) 将来を見据えた計画的・効果的な財政運営を行います

◎総務部 財務グループ (GL 岡島正明)
市民総合窓口センター 税務グループ (GL 山下浩二)
総務部 行政グループ (GL 山本時雄)
教育委員会 学校経営グループ (GL 内藤克己)
企画部 総合政策グループ (GL 野口恒夫)

<基本目標Ⅱ>

学び合い
力を合わせて
豊かな未来を
育もう

教育長 都築公人
こども未来部長 中村孝徳

目標 (3) 人と学びの輪を広げ、まちのチカラを育みます

◎こども未来部 文化スポーツグループ (GL 鈴木明美)

目標 (4) 学校・家庭・地域が連携を深め、

12年間の学びや育ちをつなげます

◎教育委員会 教育センターグループ (GL 内藤克己・主幹 村越茂樹)

目標 (5) 地域ぐるみで子育て・子育てを支えます

◎こども未来部 こども育成グループ (GL 都築真哉)

<基本目標Ⅲ>

明日を生み出す
エネルギー
やる気を活かせる
まちをつくろう

都市政策部長 深谷直弘
市民総合窓口センター長 大岡英城

目標 (6) 産業を活性化して、まちを元気にします

◎都市政策部 地域産業グループ (GL 板倉宏幸)
都市政策部 企業支援グループ (GL 島口靖)

目標 (7) みんなでまちをきれいにします

◎市民総合窓口センター 市民生活グループ (GL 芝田啓二)

目標 (8) ハーモニーを奏でる快適な都市空間をつくります

◎都市政策部 都市整備グループ (GL 田中秀彦)
都市政策部 上下水道グループ (GL 杉浦睦彦)
市民総合窓口センター 市民生活グループ (GL 芝田啓二)

目標 (9) 安全・安心が実感できる地域づくりを進めます

◎都市政策部 都市防災グループ (GL 神谷義直)
都市政策部 上下水道グループ (GL 杉浦睦彦)

<基本目標Ⅳ>

いつも笑顔で
健やかに
つながり 100 倍
ひろげよう

(福祉部長 加藤一志)

目標 (10) 一人ひとりを認め合い、その人らしく暮らせるまちづくりを進めます

◎福祉部 地域福祉グループ (GL 木村忠好)
福祉部 介護保険・障がいグループ (GL 竹内正夫)
福祉部 福祉まるごと相談グループ (GL 野口真樹)
福祉部 保健福祉グループ (GL 磯村和志)

目標 (11) 一人ひとりの元気と健康づくりを応援します

◎福祉部 保健福祉グループ (GL 磯村和志)
福祉部 生涯現役まちづくりグループ (GL 磯村和志)



2

「市民意識調査」 「みんなで目指す まちづくり指標」 結果



■ □ (1) 基本計画の施策に対する「市民意識調査」結果 □ ■

目標	計画策定時の値 (平成25年)	実績値		動向
		(平成27年)	(平成28年)	
(1) まちへの想いを育み、未来を切り開くチカラを高めます	66.4%	64.4%	62.2%	×
(2) 将来を見据えた計画的・効果的な財政運営を行います	44.5%	39.9%	45.1%	◎
(3) 人と学びの輪を広げ、まちのチカラを育みます	58.9%	56.1%	55.2%	×
(4) 学校・家庭・地域が連携を深め、12年間の学びや育ちをつなげます	61.5%	62.3%	58.8%	×
(5) 地域ぐるみで子育て・子育てを支えます	53.3%	56.6%	54.0%	△
(6) 産業を活性化して、まちを元気にします	26.9%	23.9%	21.0%	×
(7) みんなでまちをきれいにします	64.1%	70.0%	66.2%	△
(8) ハーモニーを奏でる快適な都市空間をつくります	45.8%	47.4%	44.8%	×
(9) 安全・安心が実感できる地域づくりを進めます	56.3%	56.8%	57.7%	◎
(10) 一人ひとりを認め合い、その人らしく暮らせるまちづくりを進めます	59.4%	62.3%	63.0%	◎
(11) 一人ひとりの元気と健康づくりを応援します	57.9%	67.6%	65.8%	△

※「そう思う」または「どちらかといえばそう思う」と回答した割合の合計

【動向】

- ◎＝実績値(平成28年)が計画策定時の値・実績値(平成27年)をともに上回っている。
- ＝実績値(平成28年)が計画策定時の値を下回っているが、実績値(平成27年)を上回っている。
- △＝実績値(平成28年)が計画策定時の値を上回っているが、実績値(平成27年)を下回っている。
- ×＝実績値(平成28年)が計画策定時の値・実績値(平成27年)をともに下回っている。

MEMO

■ □ (2) 「みんなで目指すまちづくり指標」一覧 □ ■ ※=市民意識調査で把握

目標	目標の達成度を計る指標	計画策定時の値 (平成25年)	実績値		動向	目標値 (平成29年)
			(平成27年)	(平成28年)		
(1) まちへの想いを育み、未来を切り開くチカラを高めます	いつまでも高浜市に住み続けたいと思っている人の割合 ※	79.4%	82.2% →	83.1% →	△	85% →
	地域活動に参加したことがある人の割合 ※	56.0%	59.2% →	62.9% →	○	65% →
	地域活動に参加している職員の割合	63.1%	78.0% →	92.1% →	◎	80% →
(2) 将来を見据えた計画的・効果的な財政運営を行います	自主財源の額	100 億円	104.7億円 →	107.2億円 →	◎	105 億円 →
	市の財政状況に関心を持っている人の割合 ※	68.8%	72.0% →	73.8% →	△	80% →
(3) 人と学びの輪を広げ、まちのチカラを育みます	高浜市に愛着や誇りを持っている人の割合 ※	72.0%	69.9% →	71.4% →	×	76% →
	将来の夢を持っている子どもの割合 ※	81.1%	76.9% →	76.1% →	×	85% →
(4) 学校・家庭・地域が連携を深め、12年間の学びや育ちをつなげます	学校が好きと感じている子どもの割合 ※	81.8%	88.3% →	88.6% →	◎	85% →
	学習に積極的に取り組む子どもの割合 ※ ★注意	69.4%	76.1% →	76.3% →	◎	75% →
(5) 地域ぐるみで子育て・子育てを支えます	子どもを産み、育てやすいと感じている人の割合 ※	65.6%	64.4% →	66.0% →	△	74% →
	子どもとふれあう行事に参加したことがある人の割合 ※	44.8%	48.9% →	49.6% →	○	51% →
(6) 産業を活性化して、まちを元気にします	市内の法人数	898 社	894 社 →	919 社 →	△	930 社 →
	行政がかかわるイベントの来場者数	76,000 人	96,000 人 →	86,000 人 →	△	100,000 人 →
(7) みんなでまちをきれいにします	1人1日あたりの家庭ごみ排出量	545g	538g →	540g →	△	490g →
	日ごろから省資源や省エネなど環境に配慮した生活をしている人の割合 ※	79.9%	78.1% →	77.9% →	×	85% →
	環境美化推進員の人数	2,900 人	5,634 人 →	6,799 人 →	◎	3,500 人 →
(8) ハートニーを奏でる快適な都市空間をつくります	暮らしやすい環境が形成されていると感じている人の割合 ※	66.5%	62.7% →	60.3% →	×	72% →
	公園・緑地、街路樹や水辺空間づくりに参加したことがある人の割合 ※	27.0%	27.4% →	27.0% →	△	32% →

目標	目標の達成度を計る指標	計画策定時の値 (平成25年)	実績値		動向	目標値 (平成29年)
			(平成27年)	(平成28年)		
(9) 安全・安心が実感できる 地域づくりを進めます	自分自身が災害(地震や風水害など)への備えができていると思う人の割合 ※	32.5%	39.0% →	37.3% →	△	45% →
	人口1,000人あたり犯罪発生件数	12.9件	7.5件 →	6.9件 →	◎	12.0件以下 →
	人口1,000人あたり交通事故発生件数	5.0件	4.1件 →	3.9件 →	◎	4.0件以下 →
(10) 一人ひとりを認め合い、その人らしく暮らせるまちづくりを進めます	地域福祉に関するボランティア活動に参加したことがある人の割合 ※	17.7%	15.2% →	17.4% →	×	25% →
	認知症サポーターの人数	2,843人	5,654人 →	6,836人 →	◎	5,600人 →
	地域包括支援センターを知っている人の割合 ※	59.9%	55.9% →	60.2% →	△	70% →
(11) 一人ひとりの元気と健康づくりを応援します	日常的に運動やスポーツを行っている人の割合 ※	34.8%	40.6% →	42.2% →	○	43% →
	かかりつけ医を持っている人の割合 ※	73.5%	76.1% →	78.6% →	○	80% →

★注意 ①あなたは、授業中に手をあげて、発言していますか
②あなたは、授業中に先生や友達の話聞いていますか
③あなたは、家で宿題以外の勉強をしていますか

の3つの設問において、そう思う(している) + どちらかといえばそう思う(している)の平均値です。

【指標の動向】

進捗の目安として、目標値(平成28年)を「計画策定時の値(平成25年) + (目標値(平成29年) - 計画策定時の値(平成25年)) × 3/4」で算出し、下記の4段階で表記しています。

- ◎ = 実績値(平成28年)が目標値(平成29年)に達している。 <8指標/26指標> (30.8%)
- = 実績値(平成28年)が目標値(平成28年)と同じ、もしくは達している。 <4指標/26指標> (15.4%)
- △ = 実績値(平成28年)が目標値(平成28年)に達していない。 <9指標/26指標> (34.6%)
- × = 実績値(平成28年)が計画策定時の値を下回っている。 <5指標/26指標> (19.2%)

【参考】

設問	H23	H24	H25	H26	H27	H28
高浜市のまちづくりのキャッチフレーズ「思いやり 支え合い 手と手をつなぐ 大家族たかはま」を知っていますか。	22.4% →	33.6% →	39.9% →	41.4% →	43.4% →	48.0% →



3

施策評価 シート



目標（1）

まちへの想いを育み、
未来を切り開くチカラを高めます

I. 目指す姿【PLAN】

総合計画から転載しています。

目標達成に向けての考え方	「いつまでも住み続けたい！」と思える高浜市を創っていくために、まちの目指す姿を共有し、市民・地域・行政がそれぞれの力を高め、みんなで連携・協力して、未来を切り開くチカラへとつなげていきます。
目標が達成された姿	<ul style="list-style-type: none"> ◇ まちへの愛着や誇りが高まり、まちのことを「自分のこと」として考えています。 ◇ まちづくりの課題や目標が共有され、一人ひとりが自分にできる行動を起こし、まちづくりの輪が広がっています。 ◇ 高浜市で暮らす日常の「心地よさ」を実感する人が増え、まちに笑顔があふれています。 ◇ 職員は、市民や地域の想いに寄り添いながら、職員力を磨き、課題の解決に向けて積極的に行動しています。

II. 目標達成のための主な取組み【DO】

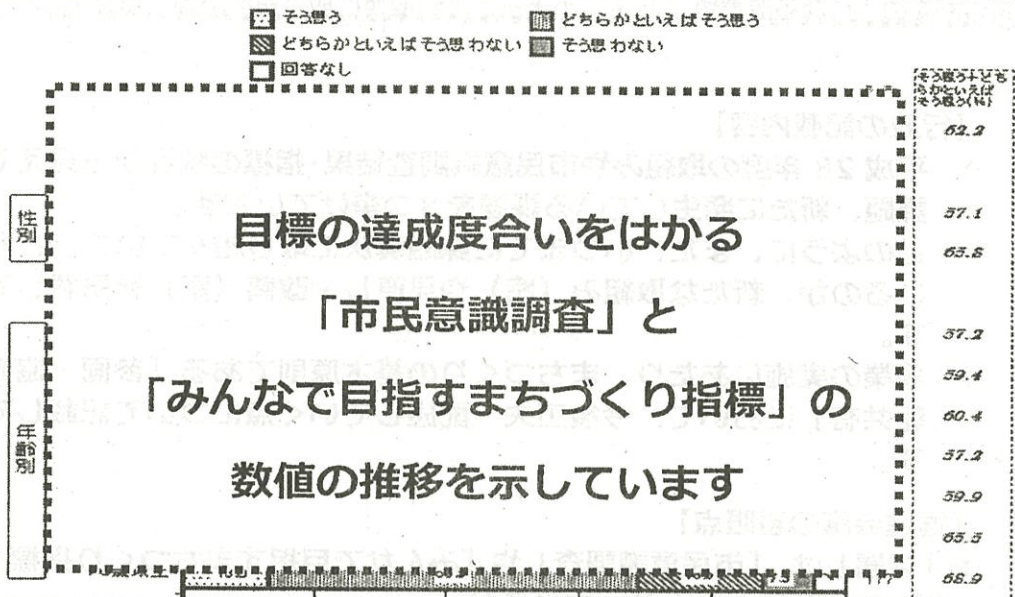
こんなことに取り組みます！	何を・どのように・どうした	いつ
(1) 市民と行政がお互いにコミュニケーションをとり、市政運営やまちづくりに関する情報発信・情報交換を活発に行います。	①広報発行により市政やまちの情報を提供し、各所管と協議しながら重要なお知らせを特集して紹介した。	H28.4～
	②ホームページに翻訳機能を追加した。	H28.6
	③市民活動情報をフェイスブックを使って発信し、まちづくり	H28.4～ H29.3
(2) 市民・地域・行政がそれぞれの得意分野を活かすにまちづくりに関する環境を進めます。	【行政の記載内容】	H28.8
	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 中期基本計画で掲げた目標の達成に向けて、平成28年度にどんなことに力を入れて取り組んできたか、主な内容を記載しています。 ◇ 事業の実施にあたり、まちづくりの基本原則である「参画・協働・情報共有」において、工夫・配慮した点について記載しています。 	H28.10～ H29.3
(3) “大家族”のみんなな生活を送ること、高浜市で暮らす日常の「心地よさ」を取組みを進めます。	【推進会議の着眼点】	H29.2
	平成28年度に実施した取組内容は、目標達成のための手段として適切だったか。	H28.5
(4) 現場を第一に考え、問題意識を持って課題に積極的に取り組むため、職員力を高めます。	①自治研修所への職員派遣（アサーティブ・コミュニケーション研修、交渉力・折衝力向上研修等）	H28.6
	②CS・接遇研修の開催	H28.6・7・8、 H29.3
	③若手・中堅職員による職員のための職員研修	H28.5～ H29.2
参画・協働・情報共有の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ☆重要施策を幅広い世代に情報提供するために特別号を作成し配布した。 ☆まちづくり活動をさまざまな媒体を活用し、写真も多く掲載しながら発信した。 	H28.11 H29.3

Ⅲ. 目標の達成状況と結果分析【CHECK】

1. 市民意識調査結果

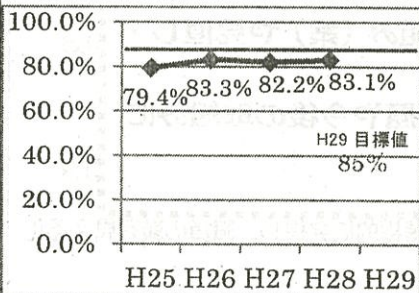
【設問】まちを愛する想いが生まれ、市民みんなが連携・協力して、まちづくりを行っているまちだと思う

現状値 (H25)	実績値 (H26)	実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	動向
66.4%	64.1%	64.4%	62.2%		×

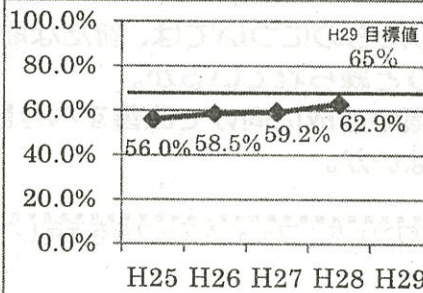


2. 「みんなで目指すまちづくり指標」の状況

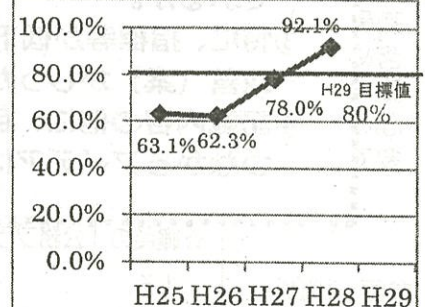
1) いつまでも高浜市に住み続けたいと思っている人の割合



2) 地域活動に参加したことがある人の割合



3) 地域活動に参加したことがある職員の割合



3. 「市民意識調査」「みんなで目指すまちづくり指標」結果に対する分析 (要因・課題等)

「指標」
気持ち
いる人
要であ
「指標」
る。し
今後も
心を高
据え、
指標3
るにも
を10
員に働
市民意
当てる
ースが
る活動
のきっか

【行政の記載内容】

「市民意識調査結果」や「指標の推移」を踏まえ、指標（目標）が達成できた要因・達成できなかった要因の分析、「市民意識調査結果」や「指標の推移」から見えてきた課題を記載しています。

※指標の目標値を見直す場合は、見直しにあたっての考え方と新たな目標値を記載しています。

【推進会議の着眼点】

- ① 「Ⅱ. 目標達成のための主な取組み」の成果との関連を踏まえた分析が行われているか。
- ② 指標等の結果から見えてきた課題が、適切に分析されているか。
- ③ 課題解決に向けた考え方・方向性が示されているか。
- ④ 「みんなで目指すまちづくり指標」や目標値の見直しは必要ないか。

のきっかけづくりを後押しできる仕組みづくりが必要である。

いう
って
も必
てい
ため、
好奇
を見
てい
標値
を職
点を
るケ
とな
ユー

Ⅳ. 課題と今後の取組み【ACTION】

課題	課題解決に向けた新たな取組み（案） 見直し・改善（案）	いつまでに
<p>(1)「地域の総合力」基盤のさらなる強化</p> <p>・一括交付金制度のさらなる改善や、「おさいん会議」やまちづくり協議会サミットの開催を通して、交付金を使って各小学校区がどのように課題解決に取り組むのか、事業の必要</p> <p>さい 団 体 た 連 高 浜 く の 必</p>	<p>・「おさいん会議」やまちづくり協議会サミットの開催を通して、交付金を使って各小学校区がどのように課題解決に取り組むのか、事業の必要</p>	0.3
<p>(2)</p> <p>境 ・ま ち が 懸 起 こ る 市 け と</p> <p>・市 民 を 整 画 ・ に 沿</p>	<p>【行政の記載内容】</p> <p>◇ 平成 28 年度の取組みや市民意識調査結果・指標の状況から見えてきた課題、新たに発生している課題を3つ挙げています。</p> <p>◇ どのように、また、いつまでに課題解決に取り組んでいこうと考えているのか、新たな取組み（案）や見直し・改善（案）を記載しています。</p> <p>◇ 事業の実施にあたり、まちづくりの基本原則である「参画・協働・情報共有」において、今後工夫・配慮していく点について記載しています。</p> <p>【推進会議の着眼点】</p> <p>①「課題」は、「市民意識調査」や「みんなで目指すまちづくり指標」の分析を踏まえたものとなっているか。</p> <p>②「課題解決に向けた新たな取組み（案）や見直し・改善（案）」は、課題を的確に踏まえたものとなっており、具体的な事業を想定して記述されているか。</p>	0.3
<p>(3)</p> <p>・職 員 含 め 識 な ど 要</p>	<p>③特に、指標等が低下したものについては、新たな取組み（案）や見直し・改善（案）がしっかりと練られているか。</p> <p>④記載内容の他に、目標の達成に向けて改善すべき課題や今後の取組みにつながるアイデアはないか。</p>	0.3
<p>参画・協働・ 情報共有の工夫</p>	<p>☆職員の「公務プラスワン」を、フェイスブック等を活用して積極的に発信し、職員の顔が見える化する。</p> <p>☆行事・新事業の情報について、即時的公表と報告にホームページをより活用する。</p> <p>☆若手職員成長支援研修では、新規採用時から地域に目を向けた研修を実施していく。</p>	0.3

V. 第6次高浜市総合計画推進会議による点検・確認結果【CHECK】

II. 目標達成のための主な取組み【DO】に関して

推進会議委員からのコメントをまとめています。

平成28年度に実施した取組内容は、目標達成のための手段として適切だったか。

III. 目標の達成状況と結果分析【CHECK】に関して

① 要因分析や課題把握は的確か。

② 「みんなで目指すまちづくり指標」や目標値の見直しは必要ないか。

IV. 課題と今後の取組み【ACTION】に関して

① 課題が的確に把握されているか。

(市民意識調査や指標結果に対する要因分析内容が踏まえられているか)

② 課題解決に向けた新たな取組み(案)や見直し・改善(案)は、課題を的確に踏まえたものとなっており、目標達成に資する内容となっているか。

③ 行政が記載した内容の他に、目標の達成に向けて改善すべき課題や今後の取組みにつながるアイデアはないか。

その他、目標の達成に向けて

目標の達成に向けた自由意見

(例：感想、行政に対する今後の期待、市民・地域でできること など)

目標(1)

まちへの想いを育み、
未来を切り開くチカラを高めます

I. 目指す姿【PLAN】

目標達成に向けての考え方	「いつまでも住み続けたい!」と思える高浜市を創っていくために、まちの目指す姿を共有し、市民・地域・行政がそれぞれの力を高め、みんなで連携・協力して、未来を切り開くチカラへとつなげていきます。
目標が達成された姿	<ul style="list-style-type: none"> ◇ まちへの愛着や誇りが高まり、まちのことを「自分のこと」として考えています。 ◇ まちづくりの課題や目標が共有され、一人ひとりが自分にできる行動を起こし、まちづくりの輪が広がっています。 ◇ 高浜市で暮らす日常の「心地よさ」を実感する人が増え、まちに笑顔があふれています。 ◇ 職員は、市民や地域の想いに寄り添いながら、職員力を磨き、課題の解決に向けて積極的に行動しています。

Ⅱ. 目標達成のための主な取組み【DO】

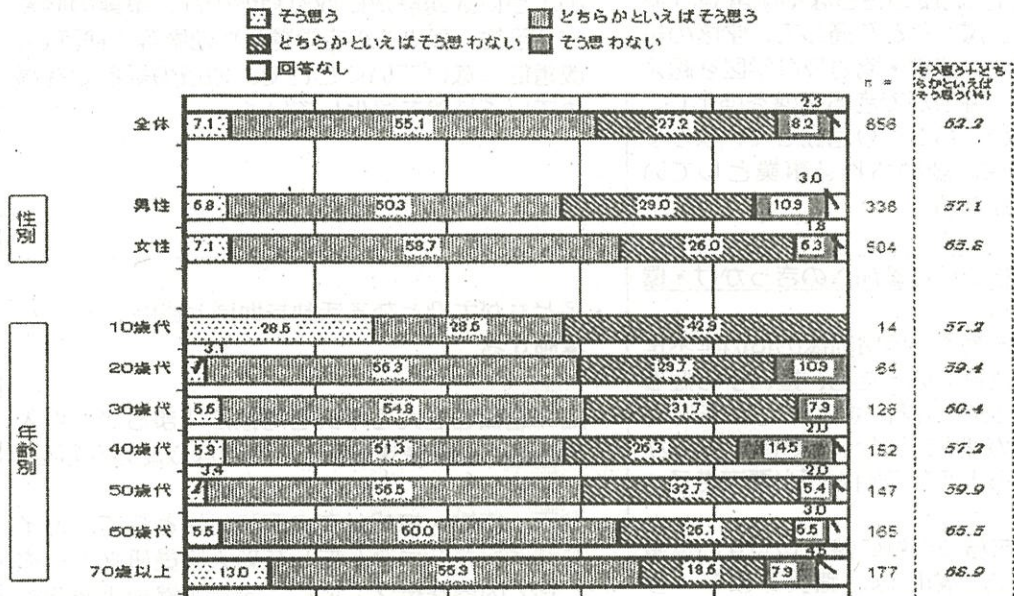
こんなことに取り組みます!	何を・どのように・どうした	いつ
(1) 市民と行政がお互いにコミュニケーションをとり、市政運営やまちづくりに関する情報発信・情報交換を活発に行います。	①広報発行により市政やまちの情報を提供し、各所管と協議しながら重要なお知らせを特集にして紹介した。	H28.4~
	②ホームページに翻訳機能を追加した。	H28.6
	③市民活動情報をフェイスブックを使って発信し、まちづくり活動の成果や意義を伝えた。	H28.4~ H29.3
(2) 市民・地域・行政がそれぞれの得意分野を活かし、ともにまちづくりに取り組んでいくための環境づくりを進めます。	①市民予算枠事業(地域一括交付型)提案に向けた説明会を、まち協とまち協構成団体を対象に行った。	H28.8
	②まち協特派員制度を、全庁協働体制を推進し、すべての若手職員が地域と関わりを持てる制度とするため、見直しを行った。	H28.10~ H29.3
	③出前授業を受けた生徒たちが実際にまちづくり活動に参加しているのかを把握することを目的に、中学生を対象にアンケートを行った。	H29.2
(3) “大家族”のみんなが幸せな生活を送ることができるよう、高浜市で暮らす日常の「心地よさ」を高める取組みを進めます。	①しあわせづくり計画実践プロジェクト(職員版)をスタートした。	H28.5
	②高浜市まちづくり研究センターと連携しざっくばらんなカフェをスタートした。	H28.6
	③総合計画の進行管理に連動した総合戦略の進行管理を実施し、総合戦略を改訂した。	H28.6・7・8、 H29.3
(4) 現場を第一に考え、問題意識を持って課題に積極的に取り組むため、職員力を高めます。	①自治研修所への職員派遣(アサーティブ・コミュニケーション研修、交渉力・折衝力向上研修等)	H28.5~ H29.2
	②CS・接遇研修の開催	H28.11
	③若手・中堅職員による職員のための職員研修	H29.3
参画・協働・ 情報共有の工夫	☆重要施策を幅広い世代に情報提供するために特別号を作成し配布した。	
	☆まちづくり活動をさまざまな媒体を活用し、写真も多く掲載しながら発信した。	

Ⅲ. 目標の達成状況と結果分析【CHECK】

1. 市民意識調査結果

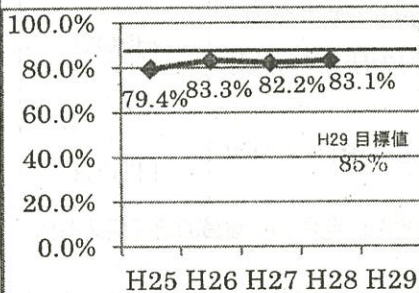
【設問】まちを愛する想いが生まれ、市民みんなが連携・協力して、まちづくりを行っているまちだと思う

現状値 (H25)	実績値 (H26)	実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	動向
66.4%	64.1%	64.4%	62.2%		×

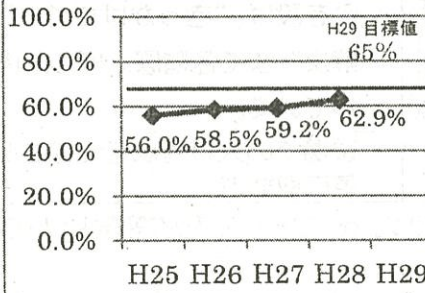


2. 「みんなで目指すまちづくり指標」の状況

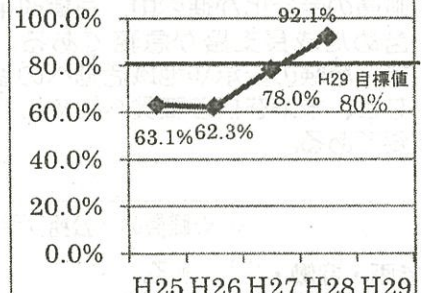
1) いつまでも高浜市に住み続けたいと思っている人の割合



2) 地域活動に参加したことがある人の割合



3) 地域活動に参加したことがある職員の割合



3. 「市民意識調査」「みんなで目指すまちづくり指標」結果に対する分析 (要因・課題等)

- 「指標1・2」は策定時と比べてそれぞれ 3.7%、6.9%の増と伸びており、いつまでも高浜市に住み続けたいという気持ちは、まちへの愛着・誇りの高まりとともに自然と醸成されていくものと思われ、「高浜市に愛着や誇りを持っている人」の割合は、策定時と比べて0.6%減少しており、まちへの愛着・誇りを高めるための取組みはこれからも必要である。
- 「指標1・2」の概要を市民意識調査報告書から見ると、10歳代の若い世代の割合が全体に比べて大きく低下している。しかし、20～30歳代で「地域活動に参加したことがある」と回答した割合は、前年に比べて増加しているため、今後も働く若い世代をターゲットに、高浜市の良さや地域活動の意義・効果等の発信など、まちへの興味・関心・好奇心を高める取組み、地域活動への一歩を踏み出せるようなきっかけを幅広く創出していくことが大切である。将来を見据え、粘り強く地道に取り組んでいく必要がある。
- 指標3)の実績値は92.1%となり、目標値の80%を大きく上回る結果となった。これは、地域活動に参加しているにもかかわらず、地域活動に参加していないとしていた職員を精査したことによるものである。後期計画では目標値を100%にするため、目標値の達成に向け、今後も研修の機会を設けるなどにより、地域活動への積極的な参加を職員に働きかけていく必要がある。
- 市民意識調査の結果は、策定時と比べて4.2%の減、前年と比べて2.2%の減少となっている。男女別の割合に焦点を当てると、前年比で男性が5.1%の減少、男性に比べ趣味・ボランティアサークルなどグループ等に属して活動するケースが多い女性の割合も0.1%の微減となっている。今後は、40歳代以上が活動に参加できるよう子どもが主役となる活動を地域と協働で企画・実施することや定年退職を迎える市民を対象にした新たな取組みを行うなど地域デビューのきっかけづくり・後押しできる仕組みづくりが必要である。

Ⅳ. 課題と今後の取組み【ACTION】

課題	課題解決に向けた新たな取組み（案） 見直し・改善（案）	いつまでに
<p>（１）「地域の総合力」基盤のさらなる強化</p> <ul style="list-style-type: none"> 一括交付金制度のさらなる改善や、「おさいふ会議」などを通して、学区の各団体同士の連携・協力及び学区を超えた連携・協力ができる基盤を強化し、高浜市のまちづくり活動して、より多くの市民に認められる事業としていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 「おさいふ会議」やまちづくり協議会サミットの開催を通して、交付金を使って各小学校区がどのように課題解決に取り組むのか、事業の必要性（目的、解決すべき課題）や効果等を検証し、改善につなげていくことで、地域の総合力を高めていく基盤を強化していく。 	H30.3
<p>（２）まちづくり参加へのきっかけ・環境づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> まち協を含め、地域団体の担い手不足が懸念されているため、担い手の掘り起こしと若い世代や定年退職を迎える市民が地域デビューできるきっかけとなるような取組みが必要である。 市民がまちづくりに参加しやすい環境を整えるためには、職員がまず「参画・協働・情報共有のガイドライン」に沿った行動をしていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもが主役となる活動を地域と協働で企画・実施する。 定年退職を迎える市民を対象に「まちづくり入門講座」を開催するなど、新たな取組みを行う。 参画・協働・情報共有の意識付けとして、ガイドラインをテキストにした新人職員研修の一環として内容を伝えていく。また、参画手法などの成功例を集め、全庁的に共有できるようにする。 	H30.3
<p>（３）「若手・中堅職員」の成長支援</p> <ul style="list-style-type: none"> 職員の若年化が進む中、意識改革を含めた成長支援が急務である。知識・経験の伝承や地域活動への参加など、未来を担う職員への支援が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 入庁後から地域活動を自分事として考える機会を設け、“きっかけづくり”から“課題発見・解決”まで各階層に応じた内容の研修を企画していく。 	H30.3
	<ul style="list-style-type: none"> 現場での人材育成を促進させる組織体制の改革に取り組む。 	H30.3
<p>参画・協働・ 情報共有の工夫</p>	<p>☆職員の「公務プラスワン」を、フェイスブック等を活用して積極的に発信し、職員の顔を見える化する。</p>	
	<p>☆行事・新事業の情報について、即時的公表と報告にホームページをより活用する。</p>	
	<p>☆若手職員成長支援研修では、新規採用時から地域に目を向けた研修を実施していく。</p>	

V. 第6次高浜市総合計画推進会議による点検・確認結果【CHECK】

Ⅱ. 目標達成のための主な取組み【DO】に関して
—
Ⅲ. 目標の達成状況と結果分析【CHECK】に関して
—
Ⅳ. 課題と今後の取組み【ACTION】に関して
<ul style="list-style-type: none">・まち協サミットで議論してきた、まちづくり協議会条例や一括交付金制度はすでに制定された。今後は、まち協をどうしていきたいか行政と協働で協議していただきたい。・職員が地域に出てくることは何よりの経験になる。職員として、ある程度の知識をつけて接してくれるとなお良い。・若い世代の取組みを応援することは、将来の高浜に返ってくる。そのきっかけづくりをお願いしたい。・まちづくり協議会の取組み内容をもっと市民に対してPRしてはどうか。・まちづくり入門講座は定年後だけでなく、現役時代から声掛けを行っておくことで人材を確保しやすくなると思う。
その他、目標の達成に向けて
—

目標（２）

将来を見据えた計画的・効果的な 財政運営を行います

Ⅰ. 目指す姿【PLAN】

目標達成に向けての考え方	歳入の大幅な増加が見込めない中、行政サービスを着実に実施していくため、中長期的な視点に立ち、公共施設のあり方など将来にわたる課題に、計画的に取り組むとともに、より効果的な財政運営を行っていきます。
目標が達成された姿	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 市税などの自主財源が安定的に確保され、計画的な財政運営が行われています。 ◇ 将来的な公共施設のあり方について、市民の関心が高まっています。 ◇ 市の財政状況に対する市民の理解が深まっています。 ◇ 市民ニーズをふまえ、効率的かつ効果的に行政サービスが提供されています。

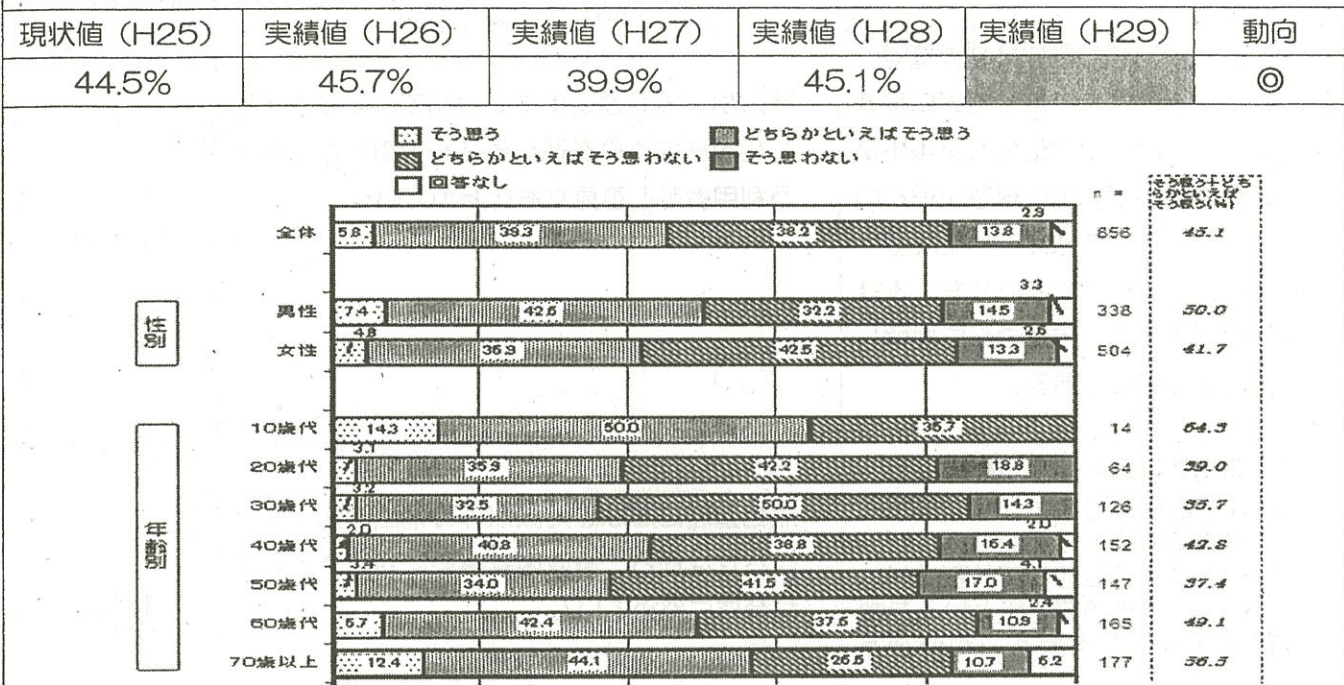
Ⅱ. 目標達成のための主な取組み【DO】

こんなことに取り組みます！	何を・どのように・どうした	いつ
(1) 市税収入など、自主財源の確保に努めます。	① 愛知県西三河地方税滞納整理機構と連携し滞納整理を実施	H28.4~
	② 「使用料・手数料見直し（改定）に係る基本方針」の検討	H29.3
(2) 限られた財源を重点的、効果的に配分するとともに、継続して行政サービスが提供できるよう、既存サービスの見直しに取り組みます。	① 平成 29 年度予算編成で経常経費削減に取り組んだ。	H29.3
	② 事業見直しを前倒しするなど「長期財政計画」を改訂	H29.3
(3) 将来の公共施設のあり方について、市民とともに問題意識を共有しながら、具体的な検討を進めます。	① 公共施設のあり方に関する個別の説明を実施	~H29.3
	② 勤労青少年ホーム跡地活用事業 基本方針の公表	H29.3
	③ 新庁舎に対応した適切な庁内文書量への削減	~H29.3
(4) 市民の知りたい、市民に知ってもらいたい財政情報を積極的に提供します。	① 「平成 28 年度当初予算の概要」・「平成 27 年度決算の概要」冊子の発行	H28.4・11
	② 「平成 28 年度予算の使いみち」の作成・公表	H28.11
(5) 市民ニーズを反映した行政サービスを展開し、行政サービスの向上につながるものについては、国・県・近隣市などをはじめとした関係機関との広域的な連携を行います。	① 衣浦定住自立圏関係市町長会議を開催し、衣浦定住自立圏共生ビジョン改訂版を承認	H29.2
	② 観光分野における取組みとして、るるぶとコラボした小冊子「きぬうら」を発行した。	H29.2
参画・協働・情報共有の工夫	☆「使用料・手数料見直し」は、利用者や指定管理者に大きな影響があるため、丁寧な説明や情報の提供に努めたい。	

Ⅲ. 目標の達成状況と結果分析【CHECK】

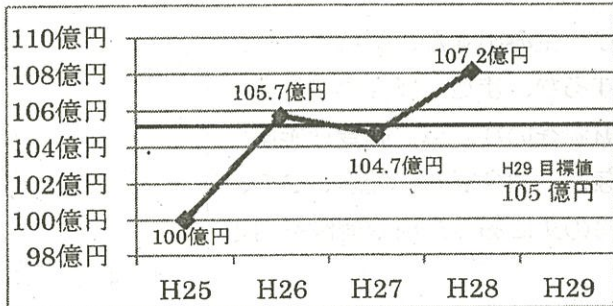
1. 市民意識調査結果

【設問】 将来を見据え、計画的で効果的な財政運営が行われているまちだと思う

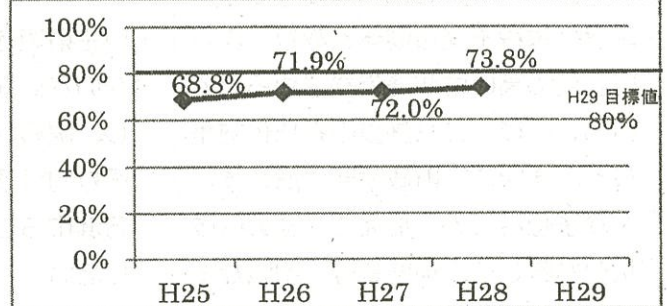


2. 「みんなで目指すまちづくり指標」の状況

1) 自主財源の額



2) 市の財政状況に関心を持っている人の割合



3. 「市民意識調査」「みんなで目指すまちづくり指標」結果に対する分析 (要因・課題等)

- 「市民意識調査」の「将来を見据え、計画的で効果的な財政運営が行われているまちだと思う」の結果は、45.1%と5.2%の増加。性別では、男性が10.3%増加し、年齢別では、50・60歳代が大幅に増加している。前回、指標が大幅に減少したのは、公共施設のあり方が実施段階に進み、一時的に不安が高まったためと考えられる、今回指標が上向いたのは、将来を見据えた公共施設改革であることへの理解が進んだためと考えている。
- 「指標 1」自主財源の額は、前年度比3億38百万円の増加。主な増加理由は、企業収益の増により法人市民税が4億48百万円増、企業の設備投資の増加等により固定資産税が1億14百万円増、及び納税義務者数の増加等により個人市民税が66百万円増加したため、市税合計では、6億66百万円の増加となり、目標値を大幅に達成した。
- 「指標 2」市の財政状況に関心を持っている人の割合は、73.8%と1.8%微増。年齢別にみると、年代が上がるほど関心が高くなっており、70歳以上で7.2%増の約80%、20歳代で8.6%減少、51.6%となっている。市民意識調査全体をみても、若い世代はほとんどの設問において指標が低く、まちづくりに関心を持ってもらうことの難しさを感じている。若者世代の他市の状況など、もう少し、分析が必要である。
- 「市民意識調査」の今後の高浜市における重要施策についての設問で、財政運営が重要と答えた人の比率は20.9%と他を大きく引き離しトップとなっており、財政健全化に取り組み、持続可能な財政基盤を確立していくための取組みが重要であることを再認識した。

Ⅳ. 課題と今後の取組み【ACTION】

課題	課題解決に向けた新たな取組み（案） 見直し・改善（案）	いつまでに
<p><u>（１）公共施設総合管理計画の推進</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 公共施設総合管理計画を着実に推進していくため、複合化のモデル事業を進めているが、単に総量圧縮というハード面だけで考えられた計画ではなく、ソフト面においても、本計画が果たす役割を市民の方に理解していただく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 高浜小学校等整備事業について、学校を核としたまちづくりを進めるための事例となるよう利用者等と意見交換を進めていく。 	<p>H30.3</p>
<p><u>（２）滞納状況に応じた市税の徴収</u></p> <ul style="list-style-type: none"> これまで財産処分による滞納整理により徴収率の向上に努めてきたが、今後は滞納状況に応じて分割納付、執行停止、多重債務対策といった救済措置も併せて実施する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 滞納整理にかかる知識以外の幅広い知識を吸収させながら、徴収困難事案に対応できる人材育成に努めていく。 	<p>H30.3</p>
<p><u>（３）健全な財政運営への取組み</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 普通交付税不交付団体となり、より自立度の高い財政運営が求められている。今後、公共施設の老朽化対策など、ますます財政需要は増えることが予想される。加えて、国の財政状況も厳しく、補助金等の削減が予想されるなど、市負担は増える一方である。よって、今まで以上に健全な財政運営への取組みが求められる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自主財源をいかに生み出すか、限られた財源をいかに配分するか、また、既存事業を見直し、限られた財源をいかに真に必要な施策に振り向けるかなど、健全財政に配慮しつつ、高浜市らしい身の丈にあった財政運営を目指したい。 	<p>H30.3</p>
<p>参画・協働・ 情報共有の工夫</p>	<p>☆市民との情報共有、問題意識の共有を図るため、まちづくりトーク&トークを活用して説明を行うなど、市民への理解・協力をお願いしていく。</p>	

V. 第6次高浜市総合計画推進会議による点検・確認結果【CHECK】

II. 目標達成のための主な取組み【DO】に関して

III. 目標の達成状況と結果分析【CHECK】に関して

・市民意識調査の今後の高浜市における重要施策についての設問で、財政運営が重要と答えた人の比率は20.9%となっており、財政状況に関心を持っている人の割合も4人に3人があるという結果が出ているのは驚異的である。市民の関心は高まっているのでこのチャンスを逃さないようにし、しっかりと情報公開しながら事業を進めていただきたい。

IV. 課題と今後の取組み【ACTION】に関して

・高浜小学校等整備事業に関して、高浜小学校区内での情報発信・意見交換は行われているが他地区には内容が見えてこない。途中経過もしっかりと公開していただきたい。

・「高浜小学校等整備事業について利用者との意見交換を進める」とあるが、このことを通して「複合化」の意味を財政面だけでなくまちづくりの観点からも市民が十分納得できるような丁寧な説明と協議が大切と思う。

その他、目標の達成に向けて

目標（3）

人と学びの輪を広げ、 まちのチカラを育みます

I. 目指す姿【PLAN】

目標達成に向けての考え方	地域の中で、「教わりたい人」と「教える人」（知恵・知識・特技などを持った人）とつながるなど、人・学びの接点を豊かにし、「まなび」を全世代へ広げ、「人づくり」から「まちづくり」へと動きをつなげていきます。
目標が達成された姿	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 感動との出会いにより、子どもだけでなく、大人もともに成長し、次の世代へ夢とロマンを語り継いでいます。 ◇ 個人が学んだ成果を、まちづくりに積極的に活かしています。 ◇ 「人づくり」から「まちづくり」への動きにつながっていくことで、高浜市に愛着や誇りを持つ市民が増えています。 ◇ スポーツ・レクリエーションを通じて市民が交流し、市民の連帯感が向上しています。

Ⅱ. 目標達成のための主な取組み【DO】

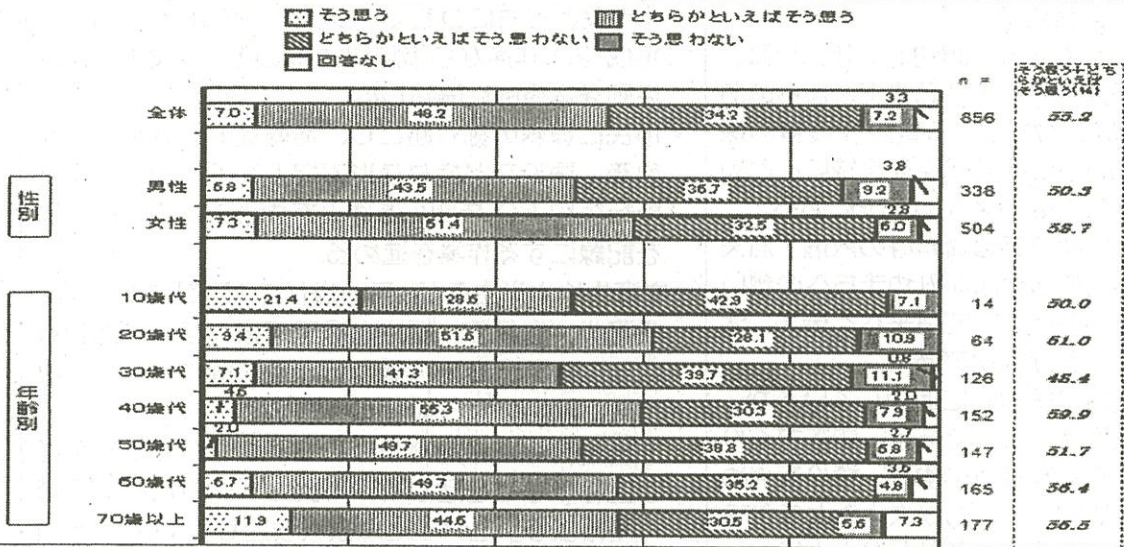
こんなことに取り組みます！	何を・どのように・どうした	いつ
(1) 地域の人たちがさまざまな先生役となり、地域の人たち（特に、子ども）の成長に関わる機会を増やします。	①テーマごとに、調査した市民の方を交えて「タカハマ！まるごと宝箱」学び合い・語り合いの会を月1回のペースで開催した。	H28.4～ H29.2
	②聞き書き冊子『たかはまとかわら』を学校等へ配布したほか、一般販売を行った。	H28.4～ H29.3
	③平成26年度に実施した「タカハマ！まるごと宝箱」について、内容をわかりやすくまとめた小冊子を編集・発行した。	H29.1～ H29.3
(2) 地域ぐるみで未来に羽ばたく人材を育て、まちづくりの活力を高めます。	(1)に同じ	
(3) 地域の良さ（歴史、文化、伝統など）を学び、地域の魅力の掘り起こし・情報発信を進めます。	①市誌編さん委員会を立ち上げ、編さん基本方針（案）や収録内容（案）、部会編成（案）の検討などを行った。	H28.11 ～H29.3
	②「タカハマ！まるごと宝箱」において、未来に残したい「まちの移り変わり」や「できごと」を募集した。	H29.2
(4) 誰もが楽しめるスポーツ・レクリエーションの機会をつくり、市民交流の場を充実します。	①高浜芳川緑地多目的広場整備工事に着手した。	H28.12
	②指定管理者と協働で、各体育施設の補修・修繕等（碧海グラウンド防球ネット設置、碧海グラウンド照明鉄塔塗装・照明設備更新、碧海テニスコート照明設備更新）を行い、市民がスポーツに親しむことのできる環境整備を行った。	H28.7～ H29.3
参画・協働・ 情報共有の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ☆市誌編さん委員会は公開制とし、市民が傍聴できるようにした。会議資料や会議録をHPで公開しているほか、広報での特集記事も掲載し、事業内容や進捗の「見える化」を行った。 ☆高浜芳川緑地多目的広場の整備や供用開始に向けて、渡し場かもめ会・芳川町町内会・吉浜まちづくり協議会といった地域団体や実際に利活用するスポーツ団体等との情報共有に努め、意見・提案を聞きながら検討を進めた。 	

Ⅲ. 目標の達成状況と結果分析【CHECK】

1. 市民意識調査結果

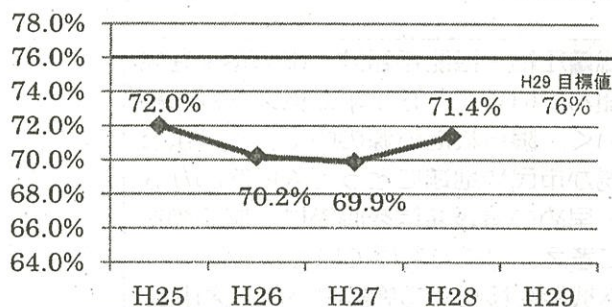
【設問】 学び（生涯学習やスポーツなど）を通して、人と人がつながり、まちづくりを担う人が育っているまちだと思う

現状値 (H25)	実績値 (H26)	実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	動向
58.9%	58.2%	56.1%	55.2%		X

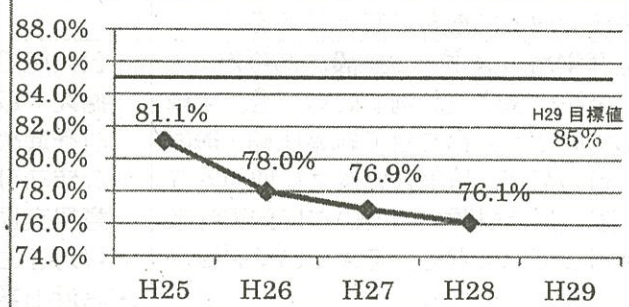


2. 「みんなで目指すまちづくり指標」の状況

1) 高浜市に愛着や誇りを持っている人の割合



2) 将来の夢を持っている子どもの割合



3. 「市民意識調査」「みんなで目指すまちづくり指標」結果に対する分析（要因・課題等）

- 「市民意識調査」は、全体では 55.2% で、前年度比 0.9 ポイントの減、策定時比 3.7 ポイントの減で、策定以来、毎年減少となっている。「市民意識調査報告書」によると、男性 (50.3%) に比べると女性 (58.7%) の方が、意識が高い結果となっている。
- 指標 1 「高浜市に愛着や誇りを持っている人の割合」は、全体では 71.4% で、前年度比 1.5 ポイントの増、策定時比 0.6 ポイントの減となっている。「報告書」によると、70 代以上 (81.9%) では全体と比べて約 10 ポイント高くなっている一方、30 代 (65.1%) と 40 代 (64.5%) では全体と比べて約 6~7 ポイント低くなっている。例年 70 代は全体よりも高く、30~40 代は全体より低い傾向にある。若い世代が低い傾向にあるのは、仕事が多忙でまちのことを省みる余裕がない、居住年数の長短の影響などがあると思われる。子どもの成長応援に関わる若い世代の新たな動きも見られており、人とのつながりや、学習・スポーツ等の活動を通して高浜市の良さを発見できるよう、また、様々な角度から高浜市の良さが伝わるような工夫が大切である。
- 「市民意識調査」及び「指標 1」の結果の要因の一つとして、生涯学習施設を中心に、公共施設の複合化・集約化の動きが具体的になっており、学習・文化・スポーツ活動に力を入れていないという誤解を与えていることが考えられる。将来を見据えて取り組んでいることをわかりやすく伝えていくことが重要である。特に 30~40 代は子どもの保護者世代が多いことから、「住んでよかった」「いつまでも住み続けたい」と思えるまちづくりを進めていく上で、特に丁寧なアプローチが必要である。
- 指標 2 「将来の夢を持っている子どもの割合」は、全体では 76.1% で、前年度比 0.8 ポイントの減、策定時比 5.0 ポイントの減となっている。「報告書」によると、男子 (72.6%) の方が女子 (80.0%) に比べて数値が低い傾向にある。また、学年が上がるにつれて数値が減少しており、特に中 1 から中 2 に進級後の減少幅が約 17 ポイントと大きくなっている (昨年の中 1 : 77.9% → 今年の中 2 : 60.6%)。1 年間の中学生生活を経て自分の適性や社会の現実を知ることになり、これまで抱いていた夢との不一致を感じる子どもが増えていることが考えられる。将来の夢を持つことは、目標に向かって自ら学び、努力・挑戦していくという意欲を高め、成長に資するものである。生涯学習分野だけでなく、学校教育分野とも関連してくるが各種学習・文化・スポーツ活動などを通して、まなびのエネルギーとなる好奇心や感動、楽しい成功体験が得られるようにしていくことが大切である。

IV. 課題と今後の取組み【ACTION】

課題	課題解決に向けた新たな取組み（案） 見直し・改善（案）	いつまでに
<p>（1）まちのチカラの源である「まちへの愛着・誇り」を高める</p> <ul style="list-style-type: none"> 「高浜市誌」の発行（昭和51年）以降、市の状況が大きく変化する中で、まちのあゆみを知ることができる貴重な資料の保存や、人々の中にある記憶を記録にとどめる作業が十分とはいえない状況にある。 市民の共有財産である資料等の散逸・消失を防ぎ、先人たちのあゆみやまちへの想いを知り、市の財産として将来へと伝え、活かしていくことが大切である。 本市では人口が緩やかに増加しているが、大半が社会増（転入）である。まちづくりの原動力となるまちへの愛着・誇りを高めていくためには、子どもが大人へと成長する過程で想いを育む、子どもが大人に対してまちの魅力等を伝えていくといった効果を狙う必要があり、子どもへのアプローチが今まで以上に重要となってくる。 	<ul style="list-style-type: none"> 「市民とともにつむぐ・つなぐ」をコンセプトに、平成29年度から市誌編さんに向けた調査・執筆活動を本格的に開始した。 市民に資料の掘り起こし、情報提供、調査、原稿執筆、語りなど様々な形で協力を呼びかけ、市制施行後約50年間のあゆみを中心に、市民の記憶を記録にする作業を進める。 中高生や大学生など、若い世代の力を活かして「聞き書き」を行う。編さん過程で様々な人が関わり合うことで、まちの魅力・自慢に触れたり、様々な人と関わり合う機会を創出する。 「市誌編さん中間発表会」や「タカハマ！まるごと宝箱」などを通じて、市民の「知りたい」「調べてみよう」といった意欲を喚起し、「伝えたい」「活動してみたい」「住んでいるまちをよりよくなりたい」といった動きにつなげていく。 	<p>H32 市誌刊行予定</p>
<p>（2）生涯学習・スポーツ施設のあり方</p> <ul style="list-style-type: none"> 「公共施設総合管理計画」に基づき、大規模改修の時期等に合わせて総量圧縮・機能移転を行うなど、将来を見据えた取組みを進め、限られた財源の中でいかに効果的な運営を行っていくかを、考えていく必要がある。 施設の複合化・集約化によって、できる限り今までのサービスへの影響を少なくしながら、新たな活用が生まれるように、また、これまで取り組んできた活動ができなくなることを極力ないように、対応していくことが大切である。 	<ul style="list-style-type: none"> 公共施設の総量圧縮・機能移転は、市の将来を見据えて取り組んでいることを丁寧に伝えながら検討を進めていく。限られた財源の中で、どのようなまなびの場が市民や地域にとって大切なのかを意見交換し、早めの情報発信を心掛け、施設のあり方をともに考え、つくりあげていく。 高浜小学校へ機能を移転する施設のうち、大山公民館については市としては保有しないが、地域の意向を踏まえ、無償譲渡に向けて、館長や利用者、施設管理者等と丁寧な協議を重ねていく。 今年度で閉場を予定している南テニスコートについて、今後の施設のあり方や代替施設などを紹介する定期利用者向け説明会を行った。 	<p>通年</p> <p>H29.5～</p> <p>H29.6</p>
<p>（3）市民とともに育む生涯学習・文化・スポーツ活動</p> <ul style="list-style-type: none"> 2020年の「東京オリンピック・パラリンピック」開催に向け、国を挙げてのスポーツ振興・文化振興の動きが活発化している。また、こうした動きを一過性のものにせず、持続的なものにしていこうという機運が高まっている。 文化・スポーツ等の活動を通して高浜市の良さを発見できたり、人とのつながりを深めることができるような機会を、市民とともに創出していくことが大切である。 	<ul style="list-style-type: none"> 市民やスポーツ団体等と連携しながら、「ポッチャ」など「いつでも・だれでも・どこでも」気軽に楽しめるスポーツ・レクリエーションの普及、機会充実に取り組む。 かわら美術館を様々な人が集まり、交わり、好奇心や創造意欲を高める場、高浜市の魅力・自慢を受発信する場とし、市民・市民団体とともに文化・芸術、生涯学習、産業・観光などの様々な能動的活動を創出していく。 生涯学習施設等の運営や事業の実施にあたっては、「場所を貸す」という一方通行型ではなく、場や機会を通して人と人が対話・交流しあい、人とまなびがつながる工夫をする。 	<p>H30.3 (H30.4以降も継続)</p>
<p>参画・協働・ 情報共有の工夫</p>	<p>☆市誌編さん事業では、大学や「子ども・若者成長応援事業」との連携を進め、子どもからお年寄りまで幅広い年齢層が事業に関われるように、また「聞き書き」などを通して世代間交流を深められるようにしていく。</p>	

V. 第6次高浜市総合計画推進会議による点検・確認結果【CHECK】

<h3>II. 目標達成のための主な取組み【DO】に関して</h3>
—
<h3>III. 目標の達成状況と結果分析【CHECK】に関して</h3>
<ul style="list-style-type: none">・市に誇りを持っている人の割合で30代の結果が低い。学校などでつながりを形成する方策の検討をしておけば、その人たちが50代、60代になったときにはつながりが強くなりやがてその世代の割合は増加すると思われる。
<h3>IV. 課題と今後の取組み【ACTION】に関して</h3>
<ul style="list-style-type: none">・「タカハマ!まるごと宝箱」について、一部の人の趣味になっているように感じる。市誌編さんの流れもあるが、地元の中高生も参加させ、若い人たちが学べる場を創出してはどうか。・市誌編さんは進めていく中で、今集めている資料を今後市民が見たいときに見れるようにして、市の歴史や自分たちの歴史を知りたいと思う人へ貢献できるような体制を作してほしい。・部活やクラブ活動の力の入れ方に何か工夫はしているか。TSCに一任するのではなく、高浜らしい方針があると、勉強よりもスポーツが好きという子は夢を持てるかもしれない。今後施策を進めていく上でスポーツはキーワードになりうると思われる。・指標(2)「将来の夢を持っている子どもの割合」が低下しているが「たかはま夢・未来塾事業」の活動内容や実績を広報することにより、同世代の子どもたちの学びへの刺激となることと共に高浜市が子どもの教育のためにユニークな事業を行いつつ成果をあげているまちであることをアピールできるのではないかと。
<h3>その他、目標の達成に向けて</h3>
<ul style="list-style-type: none">・第2次生涯学習基本構想と現在の状況にズレが生じてきているように思われるので、計画の見直し時に調整をしてほしい。

目標(4)

学校・家庭・地域が連携を深め、
12年間の学びや育ちをつなげます

I. 目指す姿【PLAN】

目標達成に向けての考え方	幼稚園・保育園、小学校、中学校といった異校種間の「タテのつながり」と、園・学校・家庭・地域といった「ヨコのつながり」を密にし、次世代を担う子どもをみんなで力を合わせて育てていきます。
目標が達成された姿	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 高浜市内の幼・保、小、中すべての教職員が、それぞれの教育観や指導法の共通点・相違点を十分理解した魅力ある授業を実施したり、子どもの様子について情報の交換を密にしたりすることで、子どもが元気に園や学校へ通っています。 ◇ 子どもが学校や家庭だけでなく、地域の様々な人とかかわりながら学んでいます。 ◇ 発達段階に応じた学習習慣や生活習慣を身につけた子どもが増えています。

Ⅱ. 目標達成のための主な取組み【DO】

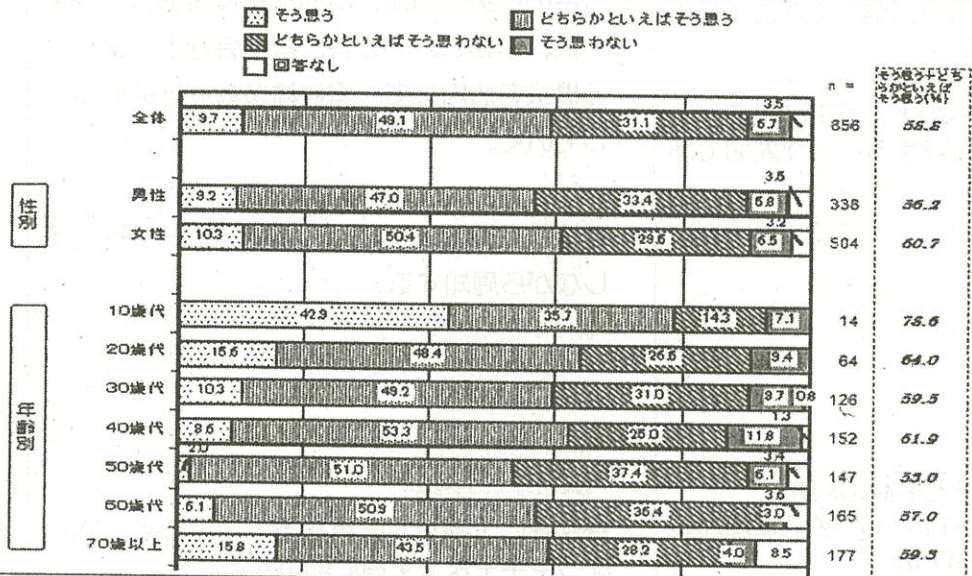
こんなことに取り組みます！	何を・どのように・どうした	いつ
(1) 幼稚園・保育園、小学校、中学校の垣根を越えて、教職員同士が現場をふまえた情報交換を密にするとともに、子どもたちの交流を行うなど、発達段階に応じた教育を実践します。	① 異校種参観を年長、小1、小6、中1担当教諭で行った。	H28.5～
	② 中1生徒の学校生活意識調査を行い、異校種間連携推進委員会にて分析結果を報告した。	H28.6
	③ 幼保小中連携事業の年間計画を現状に合わせて改善した。	H28.5～
(2) 各園・各学校の特色や高浜市のまちの資源（ひと・もの・こと*）を活かした「高浜カリキュラム（生活・総合的な学習の時間）」を市内全園・全校で実施します。	① 年長の食育、小2の生活科、小6の防災、中3のキャリア教育のモデルプランを加えて、12年間の学びをつなげる高浜カリキュラムを実践した。	H28.5～
	② これまで集約したモデルプランや資料について実践を行いながら、修正を加えた。	H28.5～
	③ 各教科において、子どもを生き生きと活動させる魅力ある単元構想を集約し、教員の授業力の向上を図り、子どもの学力定着や生きる力の育成につなげた。	H28.5～
(3) 高浜市として育てていきたい子どもの姿を策定し、地域ぐるみで子どもの成長を見守り、手助けする教育基盤づくりを進めます。	① 育てていきたい子どもの姿」周知のためにカレンダーを配付した。	H28.5
	② 広報に毎月の重点目標を紹介した。	H28.4～
参画・協働・情報共有の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ☆ 異校種参観や異校種連携事業で得た効果や課題を職員に周知した。 ☆ 高浜カリキュラムの推進にあたっては、地域の方の協力をいただくことで、学校と地域の相互理解をはかっていく。 ☆ カレンダーに関しては、園と学校の写真の量のバランスをとりながら、子どもたちの姿を広く家庭や地域に伝えていく。 	

Ⅲ. 目標の達成状況と結果分析【CHECK】

1. 市民意識調査結果

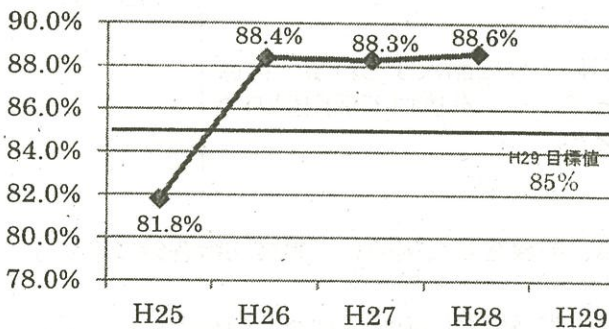
【設問】学校・家庭・地域が連携し、子どもの12年間（4歳～15歳）の学びや育ちを育む体制が整っているまちだと思う

現状値 (H25)	実績値 (H26)	実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	動向
61.5%	61.5%	62.3%	58.8%		×

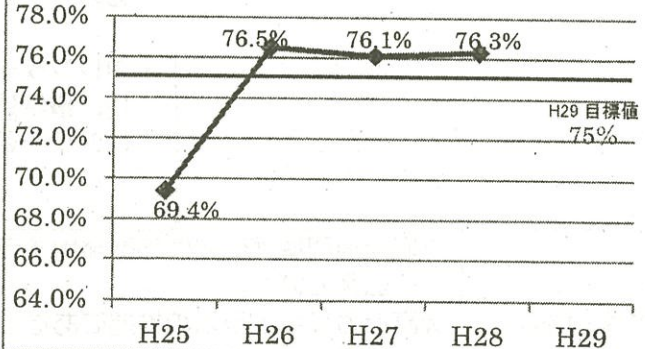


2. 「みんなで目指すまちづくり指標」の状況

1) 学校が好きと感じている子どもの割合



2) 学習に積極的に取り組む子どもの割合



3. 「市民意識調査」「みんなで目指すまちづくり指標」結果に対する分析（要因・課題等）

- 子どもたちが、教職員だけでなく地域の人たち（ゲストティーチャー）と関わり、高浜市の伝統・文化等を学び高浜市のよさを実感して成長していることから、60%近くの地域の人たちが12年間の学びを育む体制が整っていると感じている。
- 市民意識調査結果は、前年比3.5ポイントの減少となった。幼保小中の異校種連携事業を各園・各校で工夫して行い続けることで、自己有用感を高めることにつなげていきたい。
- 「指標1」「学校が好きと感じている子どもの割合」は、H26に大幅な伸びとなり目標値を超えたが、今回は前年結果とほぼ横ばいであった。異校種間連携事業で、子どもたちが今の学校生活にフィットしているため、学校生活を安心して過ごすことができ、学校が好きだという気持ちにつながったが、当事業のさらなる充実が求められる。
- 「指標2」「学習に積極的に取り組む子どもの割合」についても、H26に大幅な伸びとなり目標値を超えたが、今回は前年結果とほぼ横ばいであった。高浜カリキュラムの生活科・総合的な学習の時間で単元を通して、子どもたちが主体的に学びを深め、学習するおもしろさを実感できたと考える。今後も、子どもの学びの機会を創出し、学びや育ちを育むための体制構築に努めていきたい。

IV. 課題と今後の取組み【ACTION】

課題	課題解決に向けた新たな取組み（案） 見直し・改善（案）	いつまでに
<p><u>(1) 異校種参観（教師中心の活動）の充実</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 異校種参観の意義が職員全体に十分に浸透していない。 異校種参観で得られた課題や効果等を広く職員に周知することが大切である。 	<ul style="list-style-type: none"> 日常の授業に加え、市内一斉授業研究、研究発表、運動会、学芸会、音楽会など、あらゆる機会を活用して、異校種参観を地道に継続していく。 異校種参観の意義について参観シートを活用しながら周知する。 	<p>H30.3</p>
<p><u>(2) めざす子ども像の周知</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 育てていきたい子どもの姿をに周知していく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 各家庭に1部ずつ配布するのではなく、園児から中学生まで全員に配布する。 子ども一人一人が、自分のカレンダーを使って「めざす子ども像」が意識できるようにする。 カレンダーの日にち枠に記入する行事を精選し、書き込めるスペースを広げて活用型のカレンダーを考える。 	<p>H30.3</p>
<p>参画・協働・ 情報共有の工夫</p>	<ul style="list-style-type: none"> ☆異校種間連携における啓発用チラシは、写真を多く掲載し、事業内容を分かりやすく伝えていく。 ☆高浜カリキュラムの推進にあたっては、地域の方に講師になっていただくことで、相互理解をはかっていく。 ☆「目指す子ども像」のカレンダー作成にあたっては、写真を多く掲載し、目指す子ども像を分かりやすく伝えていく。 	

V. 第6次高浜市総合計画推進会議による点検・確認結果【CHECK】

Ⅱ. 目標達成のための主な取組み【DO】に関して

—

Ⅲ. 目標の達成状況と結果分析【CHECK】に関して

—

Ⅳ. 課題と今後の取組み【ACTION】に関して

・「育てていきたい子どもの姿」がよく見えない。例えばお手伝いシールやごほうびシールなどで子どものやる気を起こさせるなど、子どもの興味を引く仕掛けが必要である。シールを貼ったあとにコメントを書けるようにするなど、ただ配布されるだけではなく、保護者の意識も高め、親と子の会話・やりとりも増やす施策を期待する。

・カレンダーがどんな活用・使われ方をされているのか調査するのも必要となってくる。

・高浜カリキュラムのことをほとんどの市民が分かってないと思う。モデルプランの公表が必要となってくるのではないかな。

・カレンダー配布に関して、小学校低学年までは家庭に1つでいいと思う。また、各まちづくり協議会にも提供されたい。

その他、目標の達成に向けて

・地域の人材はかなり豊富で教えることが好きな人もたくさんいる。そういった方を利用していくべきである。単発ではなく定期的にやっていかないと後につながっていかないと思う。

・まずは学校を好きにさせることが何よりも大事である。

目標（５） 地域ぐるみで 子育て・子育てを支えます

I. 目指す姿【PLAN】

目標達成に向けての考え方	地域社会を構成する地域・事業者・関係機関と連携し、子育て・子育てを総合的に支援することにより、「社会の宝」である子どもが健やかに成長でき、安心して子どもを産み育てることができる環境を整えていきます。
目標が達成された姿	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 子育てと仕事の両立など、安心して子どもを産み、育てられる環境が整っています。 ◇ 子育てを楽しむ親や地域の大人が増え、親子の対話や世代間交流が活発に行われ、子どもとともに成長しています。 ◇ 子どもの視点に立った成長支援が地域ぐるみで行われ、子どもがのびのびと活動し、家庭やまちに笑顔があふれています。

II. 目標達成のための主な取組み【DO】

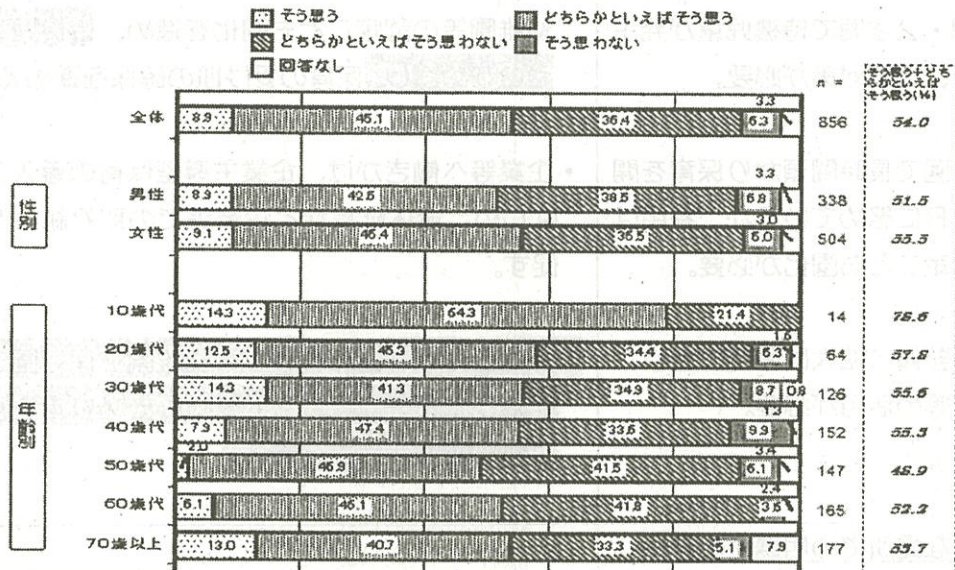
こんなことに取り組みます！	何を・どのように・どうした	いつ
(1) 「高浜市子ども・子育て支援事業計画」を策定し、多様で柔軟な保育サービスの提供など、子育てニーズを適切なサービスに結びつける取組みを進めます。	① 吉浜さんさん保育園の4歳児定員を追加した。	H28.4～
	② 高浜幼稚園で、7:30～18:00 までの長時間預かり保育を開始した。	H28.4～
	③ 保育園入園説明会、高取幼稚園の入園説明会で、民営化・認定こども園化について情報提供した。	H28.10
(2) 子どもの想いを理解し、子どもの視点に立って、成長を支援できる大人を増やす取組みを行い、「地域の子育て力」を高めます。	① こども育成グループに、子育て支援コーディネーターを配置し、利用者の相談体制を拡充した。	H28.4～
	② いちごプラザに、子育て・家族支援者を配置し、身近な場所での利用者支援を拡充した。	H28.4～
	③ 定期的に子育て支援ネットワークのメールマガジンを配信し、行事等の情報提供を行った。	H28.4～
(3) 世代間や異年齢同士の子どもの交流機会を豊かにし、子どもの自主性・社会性を育む居場所を充実します。	① 各小学校区において、児童センター等を活用し、センターキッズ事業を実施した。	H28.4～
	② 小学校の全校集会で居場所事業の説明会を開催し、事業を小学生と先生向けにPRした。	H28.4～
	③ 子育て支援ネットワークのポータルサイトで居場所事業のページを充実し、実施状況が見られるように改善した。	H28.9～
参画・協働・情報共有の工夫	☆現場の利用者の声を活かしたポータルサイトの運営を行った。	
	☆年度当初に、全ての小学校で児童にチラシを配布し、居場所事業等の周知をした。	

Ⅲ. 目標の達成状況と結果分析【CHECK】

1. 市民意識調査結果

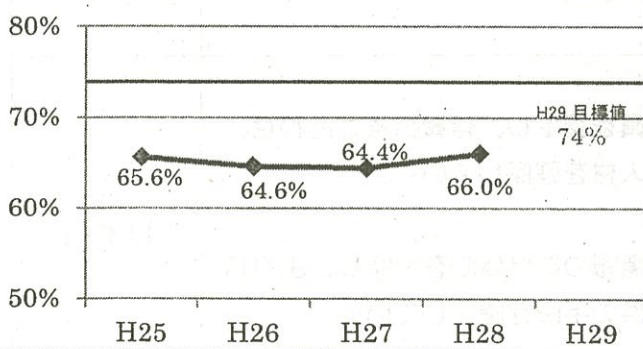
【設問】地域ぐるみで、子育てを支えているまちだと思う

現状値 (H25)	実績値 (H26)	実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	動向
53.3%	55.4%	56.6%	54.0%		△

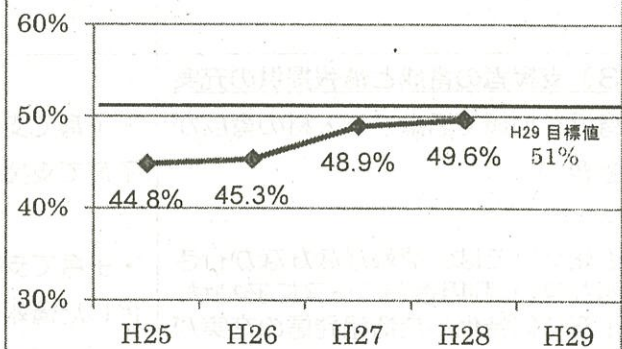


2. 「みんなで目指すまちづくり指標」の状況

1) 子どもを産み、育てやすいと感じている人の割合



2) 子どもとふれあう行事に参加したことのある人の割合



3. 「市民意識調査」「みんなで目指すまちづくり指標」結果に対する分析（要因・課題等）

- 意識調査及び指標のいずれも、ほぼ横ばいの結果となっている。
- 意識調査は、大幅な施策の動きがないため、当事者世代の回答は前年度と大差ないと考えられる。自由記述全体の傾向から、50代は行政経営への客観的な批判が多いことから、当事者でない世代として子育て施策を客観的に捉えている結果、低い数値となっていると考えられる。
- 「指標2」は、国の女性活躍推進や待機児童対策の影響を受け、30代に加え、20代の数値が低下している。待機児童対策と子育ての環境整備が引き続きの課題。

IV. 課題と今後の取組み【ACTION】

課題	課題解決に向けた新たな取組み（案） 見直し・改善（案）	いつまでに
<p>（１） 待機児童対策の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 国の施策の影響もあり、年度当初から1歳児・2才児で待機児童が発生しており、その対策が必要。 公立幼稚園で長時間預かり保育を開始し、PRに努めているが、利用は低調。認定こども園化が必要。 公共施設整備の拡大は困難であり、民間活力等の活用が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> 子ども・子育て支援事業計画に沿って、公立幼稚園等の認定こども園化を進め、待機児童ゼロをめざし、保育の受け皿の確保を進める。 企業等へ働きかけ、企業主導型保育の導入をはじめ、育休延長など企業等での取組みを促す。 保育士確保を含め、公立の幼稚園・保育園を維持し、保育の質の向上に向けたあり方を整理し、情報提供していく。 	<p>H31.3</p>
<p>（２） 身近な場所での居場所の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童センターや放課後居場所事業に限らず、子どもたちが自由に利用できる居場所の確保が必要 	<ul style="list-style-type: none"> 健康自生地のように、公共施設に限らず、身近な場所で子どもの居場所を確保し、情報提供していく。 	<p>H31.3</p>
<p>（３） 支援者の育成と情報提供の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 身近な地域で活躍する人材の育成が必要。 広報だけでは、情報がなかなか行き届かない。利用者のニーズにあわせ、子育てに特化した情報発信の充実が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> 子育て支援員を認定し、有資格者と合わせ、子育て支援の人材を確保していく。 子育て支援情報の提供体制を充実し、より特化した情報提供の手段を確保していく。 	<p>H30.3</p>
<p>参画・協働・ 情報共有の工夫</p>	<ul style="list-style-type: none"> ☆高取幼稚園・高取保育園の民営化・認定こども園化の移管事業者については、市内で運営実績のある法人を前提に進め、市民の不安を軽減する。 ☆提供したい情報にあわせて、関係者と協議し、適切な場や方法を検討する。 ☆フェイスブックを活用するなど情報発信方法を工夫する。 	

V. 第6次高浜市総合計画推進会議による点検・確認結果【CHECK】

II. 目標達成のための主な取組み【DO】に関して
—
III. 目標の達成状況と結果分析【CHECK】に関して
—
IV. 課題と今後の取組み【ACTION】に関して
<ul style="list-style-type: none">・ 幼保の連携は大切。すべての幼稚園・保育園を民間に移行してしまうのではなく、公立園として、ちゃんと残して、市の職員として、保育士・教諭が園にいていただき、保育の質の向上に努めてもらいたい。・ 市内の幼稚園・保育園が今後どう動いていくのかといった全体としての説明がないと、親が不安になるので、十分な情報提供を今後も行っていく必要がある。
その他、目標の達成に向けて
<ul style="list-style-type: none">・ フェイスブックを使った周知はとても良い。

目標（6）

産業を活性化して、 まちを元気にします

I. 目指す姿【PLAN】

目標達成に向けての考え方	働く場や消費の場として市民の日常の暮らしを支え、まちの活力を生み出す基盤である産業（農業・商業・工業など）を活性化するため、現場のニーズをふまえた振興策や、事業者やまちの強みを伸ばす取組みを応援していきます。
目標が達成された姿	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 事業者やまちの強みを活かした産業活動が、活発に行われています。 ◇ 新たな雇用や消費が生まれ、市民生活の基盤が安定しています。 ◇ まちの元気を生み出そうと、意欲を持った市民や団体が、ビジネスの手法による地域課題解決や活性化に向けた行動を起こしています。 ◇ まちの魅力や自慢が市内外に知られ、高浜市で過ごす時間を楽しむ人が増え、賑わいや活気が生まれています。

II. 目標達成のための主な取組み【DO】

こんなことに取り組みます！	何を・どのように・どうした	いつ
(1) 行政内部や関係機関との連携を強化し、新たな工業用地の創出や企業誘致を進めます。	①市東部地区の開発計画についての周知、また、造成工事の概要とスケジュールについての周知を図るため、地区説明会を開催した。	H28.5～
	②市北部地区の開発計画について、土地所有者に対し説明会を開催した。	H28.12
(2) 事業者・関係機関との連携を強化し、現場のニーズをふまえ、産業の活性化、雇用の安定に向けた取組みを進めます。	①造園による瓦材活用を補助対象とした。	H28.4～
	②B-1グランプリスペシャル in 東京・臨海副都心において瓦に対する消費者アンケートを実施した。	H28.12
	③地元子ども会・町内会との連携による高取みどり会主催のジャンボ落花生植栽会・収穫祭を実施。TV局の取材対応も行い同日に放映するなどPRを図った。	H28.5、10
(3) コミュニティ・ビジネスの創業や持続的な経営に向けた支援を行います。	①高浜高校生1年生へのSBP（ソーシャル・ビジネス・プロジェクト）参加呼びかけ	H28.7～
	②高校生と市内鬼瓦事業者・自動車事業所へのマッチング	H28.12
	③コミュニティ・ビジネスフォーラム実施 コミュニティ・ビジネスセミナー実施	H28.6 H28.7
(4) 自然・伝統文化・施設などの地域資源をつなぎ、市民・事業者・関係機関とともにまちの魅力を高め、賑わいの創出や交流人口の拡大に向けた取組みを行います。	①鬼みちまつり実行委員会が実施する秋・春の鬼みちまつりに対し、職員の人的支援や関係機関との調整を図った。	H28.10 H29.3
	②西三河広域観光協議会にて Web ガイドによる周遊ルートシステムが運用	H28.4～
	③B-1グランプリスペシャル in 東京 臨海副都心にて高浜市をPR	H28.12
参画・協働・情報共有の工夫	☆商店会主催の三州瓦のぼりを公共施設に設置、公用車へのマグネット看板貼り付けなど、応援活動の協力を行った。	
	☆高浜市観光協会および鬼みちまつり実行委員会の会議に参加し、市民の自主性を尊重し、かつ、観光事業が行政からの丸投げにならないよう配慮した。	

Ⅲ. 目標の達成状況と結果分析【CHECK】

1. 市民意識調査結果

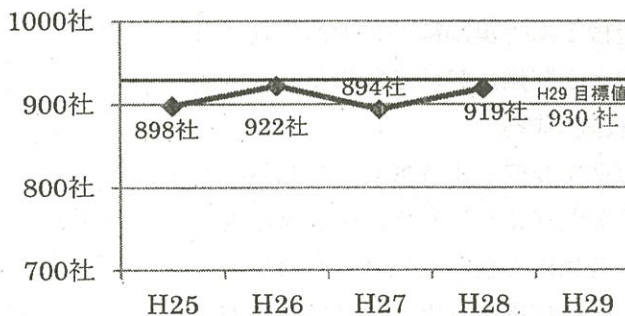
【設問】産業が活性化して、まちが元気になっていると思う

現状値 (H25)	実績値 (H26)	実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	動向
26.9%	28.4%	23.9%	21.0%		×

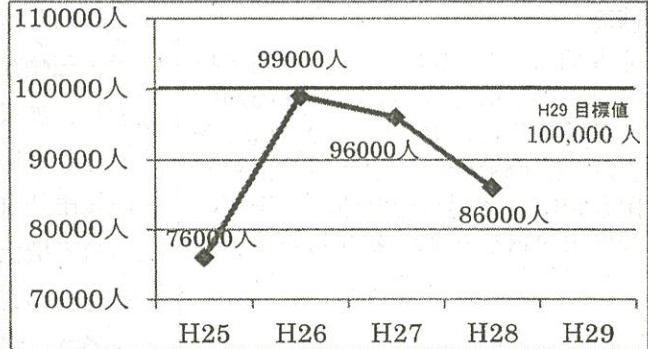
性別	年齢別	回答内容 (%)				n	実績値 (%)
		そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない		
全体		3.2	17.8	53.6	22.3	3.2	21.0
男性		3.3	15.1	55.3	23.4	3.0	18.4
女性		3.0	19.2	53.2	21.8	2.8	22.2
	10歳代	14.3	28.6	57.1			42.9
	20歳代	10.9	23.4	40.6	25.0		34.3
	30歳代	22.2	49.4	27.9			23.8
	40歳代	4.5	17.1	51.3	25.0	2.0	21.7
	50歳代	13.6	59.3	23.1		2.7	14.3
	60歳代	13.5	61.2	21.8		3.0	13.9
	70歳以上	4.0	18.6	52.0	17.5	7.9	22.6

2. 「みんなで目指すまちづくり指標」の状況

1) 市内の法人数



2) 行政がかかわるイベントの来場者数



3. 「市民意識調査」「みんなで目指すまちづくり指標」結果に対する分析 (要因・課題等)

- ・「指標1」市内の法人数は、昨年度と比較して25社増加した。これはサービス業が22社増加したことが主な理由となる。
- ・「指標2」「行政が関わるイベントの来場者数」(鬼みちまつり、オニマルシェ、かわら美術館来館者数)は、昨年度と比べて1万人減少した。内訳としては鬼みちまつり来場者数は約1400人増加分したが、かわら美術館の来場者数が約12000人減少したことが主な理由となる。
- ・市民意識調査、みんなで目指すまちづくり指標ともに下降しており、市民意識調査の結果としては、昨年同様、景気上昇の恩恵を大手企業ほど中小企業が受けていないことに起因すると考える。また、熊本地震、アメリカ大統領選挙やTPPなど、先行きが不安定な要素が地場産業の活動に二の足を踏ませていることなどが産業の活性化について慎重な意見として表れていると分析している。

IV. 課題と今後の取組み【ACTION】

課題	課題解決に向けた新たな取組み（案） 見直し・改善（案）	いつまでに
<p><u>(1) 工業用地の創出に伴う調整</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 市東部地区や市北部地区が、計画どおり進むよう、事業者や関係機関などと調整を図る必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 市東部地区は、平成31年2月末の造成工事完了を目指し、事業者の愛知県企業庁や工事に関係する機関と連携・調整を図る。 市北部地区は、早期の造成工事への着手を目指し、開発主体の民間事業者や愛知県などの関係機関と事業実施に必要な各種手続きなどの協議・調整を実施する。 	H30.3
<p><u>(2) ジャンボ落花生の耕作面積の拡大</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 現在、農家のジャンボ落花生の植栽は手によるものが多く、今後耕作面積を拡大するためには機械による作付けが必要不可欠である。 	<ul style="list-style-type: none"> 農業者により組織される利用改善組合によるジャンボ落花生普及促進を図り、機械を導入し、作付者に利用してもらうことで営農事業者も視野に入れた作付面積の拡大を図る。 	H30.3
<p><u>(3) 地場産業の三州瓦の販売方法の検討</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 熊本地震など、震災の度に報道される瓦の風評被害を払しょくする対応を検討するとともに、瓦の伝統性を生かした商品開発やブランド化の支援を行い、屋根瓦の優位性やデザイン性のPRをする必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 「みんなで三州瓦をひろめよう条例」に基づき、三州瓦屋根工事等奨励補助金の対象を拡大し、多くの方に三州瓦が目に触れることができる環境を創出する。 見本市や飾り瓦コンクールを多くの方に触れられる機会を提供するとともに、引き続き支援を行うことで瓦材の良さを知ってもらう。 ふるさと名物応援宣言を活用した商品開発の支援や、伝統的工芸品認定など国の支援を活用し、販路拡大・新商品開発の推進による効果的な「瓦のブランド化」を業界が行うことに対し支援する。 	<p>H30.3</p> <p>H30.3</p> <p>H30.3</p>
<p>参画・協働・ 情報共有の工夫</p>	<ul style="list-style-type: none"> ☆市東部地区の進捗状況を、地域に情報提供する。 ☆市民がジャンボ落花生を食するだけでなく、植栽への参加のPRを行いながらも、市外イベントへの提供呼びかけにも積極的に対応することで、特産品に多くの方に触れてもらうように心がける。 ☆他県ですでに実施されている高校生SBP活動団体と情報共有を行い、無理のない事業展開を検討する。 	

V. 第6次高浜市総合計画推進会議による点検・確認結果【CHECK】

II. 目標達成のための主な取組み【DO】に関して

—

III. 目標の達成状況と結果分析【CHECK】に関して

・指標について下降傾向にあるが、今年あたりは社会変化によって外圧を受けて停滞している場合が考えられる。必ずしも悲観する必要はないと感じている。産業関係は行政の自己努力だけでは限界があるため官民協力していくことが重要であると思う。

IV. 課題と今後の取組み【ACTION】に関して

- ・ジャンボ落花生を売るための方法も確立してほしい。
- ・後継者が高齢化している。後継者を育てるようなネットワークづくり、団体ができるといいと思う。
- ・工業用地創出に向けて、企業の熱が冷めないうちにスピード感を持って取り組んでほしい。

その他、目標の達成に向けて

—

目標（7）

みんなでまちをきれいにします

I. 目指す姿【PLAN】

目標達成に向けての考え方	人類の共有財産である地球環境を守るため、一人ひとりが地球環境に対する意識を高め、地域・学校・事業者・関係機関と力を合わせて環境に配慮した取組みを実践し、環境の負荷が少ない、快適できれいなまちを、次世代に引き継ぎます。
目標が達成された姿	<ul style="list-style-type: none"> ☆ 資源化が進み、ごみの量が減っています。 ☆ ごみの散乱がなく、きれいで住みやすいまちになっています。 ☆ 環境に配慮して行動する市民、事業者が増えています。 ☆ 地球環境に対する意識が高まっています。

II. 目標達成のための主な取組み【DO】

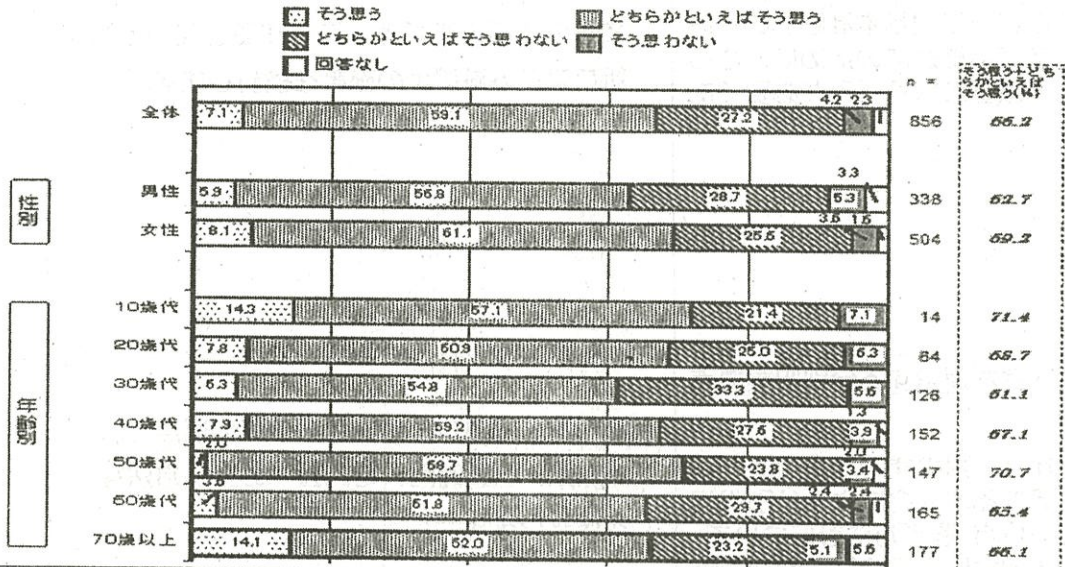
こんなことに取り組みます！	何を・どのように・どうした	いつ
(1) 「高浜市みんなでまちをきれいにしよう条例」を推進します。	① 「生活環境問題研究会」及び「生活学校」において可燃ごみ袋、分別拠点のあり方などを検討した。	H28.4～
	② 雑草が繁茂している土地等の所有者に対し、適正管理するよう文書を送付した。	H28.4～
(2) 「高浜市ごみ処理基本計画」に基づき、紙ごみのリサイクルをはじめ、ごみの減量化に取り組みます。	① 高浜エコハウスで資源ごみ分別学習を開催した。	H28.4～
	② 町内会の協力を得ながら、資源ごみ分別収集を継続して実施した。	H28.4～
	③ 生ごみ処理機の補助金を増額した。（上限2万円から上限3万円へ）	H28.10～
(3) 地域・学校・事業者・関係機関と連携した環境美化活動、環境保全活動に取り組むこととし、不法投棄対策を積極的に進めます。	① 「生活環境問題研究会」及び「生活学校」において可燃ごみ袋、分別拠点のあり方などを検討した。	H28.4～
	② 小学校と協力し、職員が講師となり環境学習等を実施した。	H28.7
	③ 子ども環境美化推進員の登録と活動支援を実施した。	H28.4～
参画・協働・情報共有の工夫	☆環境政策に関する検討組織「生活環境問題研究会」を設置した。	
	☆「生活環境問題研究会」及び「生活学校」において可燃ごみ袋、分別拠点のあり方などを検討した。	

Ⅲ. 目標の達成状況と結果分析【CHECK】

1. 市民意識調査結果

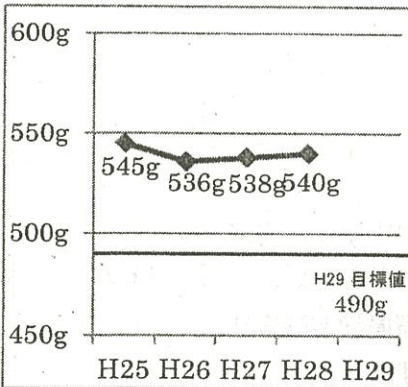
【設問】 みんなで環境美化・保全に取り組んでおり、きれいなまちだと思う

現状値 (H25)	実績値 (H26)	実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	動向
64.1%	67.4%	70.0%	66.2%		×

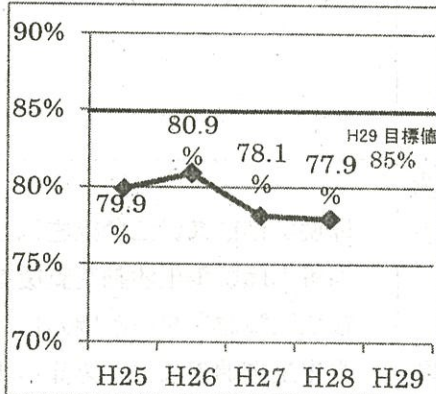


2. 「みんなで目指すまちづくり指標」の状況

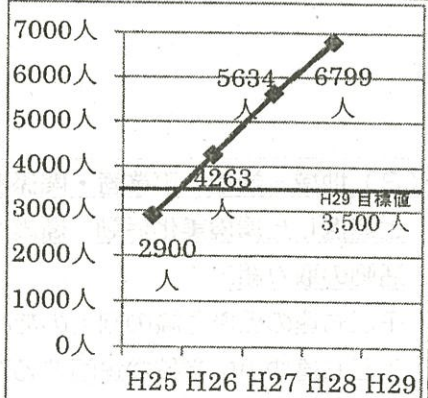
1) 1人1日あたりの家庭ごみ排出量



2) 日ごろから省資源や省エネなど環境に配慮した生活をしている人の割合



3) 環境美化推進員の人数



3. 「市民意識調査」「みんなで目指すまちづくり指標」結果に対する分析 (要因・課題等)

- 平成 25 年度 (基準値) から毎年、指標は上昇していたが、平成 28 年度実績は、初めて減少したものの基準値 (64.1%) よりも若干高い 66.2% であった。
- 特に「そう思う」と回答した割合が、7.1% と過去 4 年間で最低の割合であったことが影響していると考えられる。
- 「指標 1」「1人1日あたりの家庭ごみの排出量」については、策定時と比べて5グラムの減少となった。目標達成のためには、市民、事業者のさらなる協力が必要となる。
- 「指標 2」については、策定時と比べ 2.0% 減少したが、77.9% と依然高い水準は確保している。分別収集が、市民にとって当たり前の活動として定着していることが伺える。
- 「指標 3」「環境美化推進員」については、策定時と比べ大幅な増加となり、目標値を達成することができている。今後とも、子ども達や事業所に対して、環境美化推進員の登録を推進する。

V. 第6次高浜市総合計画推進会議による点検・確認結果【CHECK】

II. 目標達成のための主な取組み【DO】に関して

III. 目標の達成状況と結果分析【CHECK】に関して

・指標が下降傾向にあるが、これは市民側に慣れが出てきているからであると思う。施策に大きな変化が出ていないから伸びていないのであり、数年前は大きな変化があったということである。悲観する必要はないと感じている。

IV. 課題と今後の取組み【ACTION】に関して

- ・生活環境問題研究会の活動がもっと見えるようになるとうい。
- ・ごみ分別は町内会の力を借りないとできない。町内会をバックアップできるような、盛り上げるような仕組みが必要となってくる。

その他、目標の達成に向けて

目標（８）

ハーモニーを奏でる
快適な都市空間をつくります

I. 目指す姿【PLAN】

目標達成に向けての考え方	住み続けたいと思える快適なまちをつくるために、地域の特性に応じた秩序ある土地利用を推進し、住環境、ライフライン、道路、景観・憩いの場など、都市を形成するそれぞれの要素を調和（ハーモニー）させていきます。
目標が達成された姿	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 都市空間の調和が保たれ、快適に暮らせる住環境やライフラインの整備が進んでいます。 ◇ 誰もが日常生活において、スムーズに移動できる環境づくりが行われています。 ◇ 公園・緑地などが、やすらぎや愛着・誇りが感じられる憩いの場として親しまれ、笑顔と賑わいであふれています。

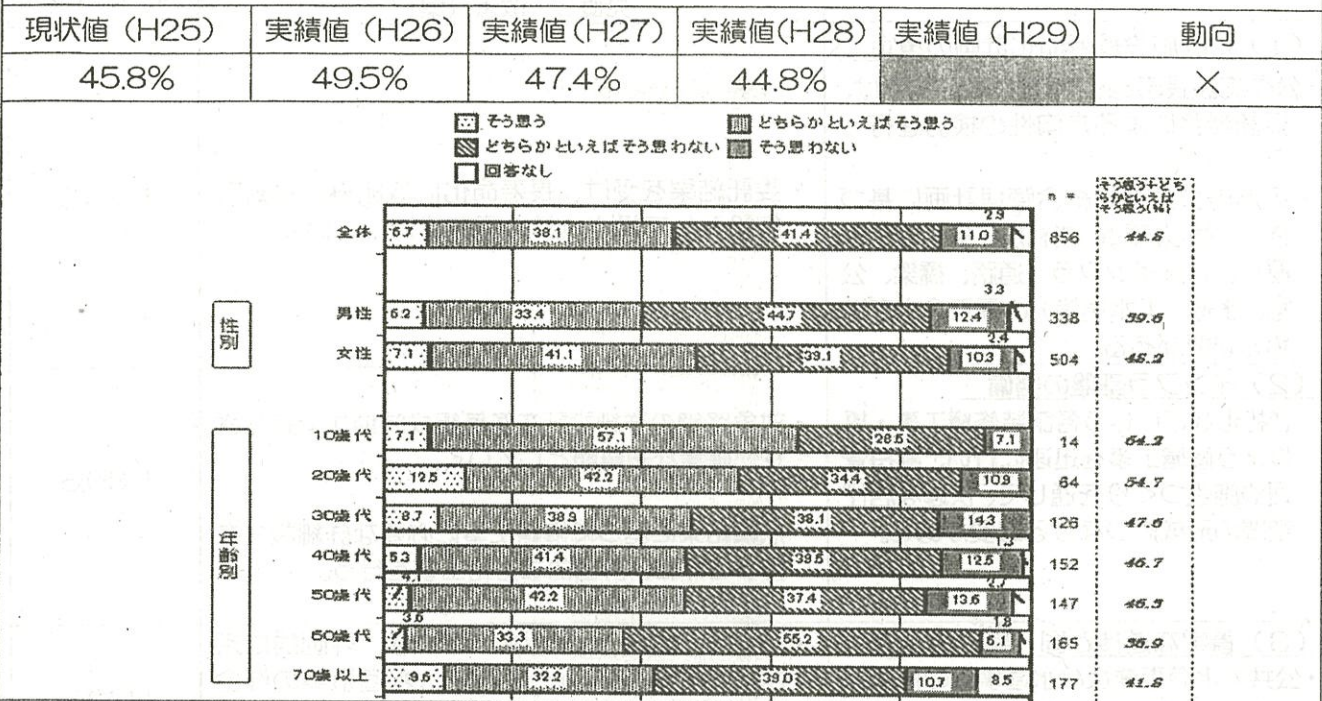
II. 目標達成のための主な取組み【DO】

こんなことに取り組みます！	何を・どのように・どうした	いつ
(1) 住環境やライフラインの整備など、都市空間の快適さや安全性、魅力を高める取組みを進めます。	①配水管を耐震管に入れ替える工事を完了した。	H29.3
	②平成 28 年度工事区域内の汚水整備工事を完了した。	H29.3
	③配水場の老朽設備の更新工事を完了した。	H29.3
(2) 安全・安心・便利に移動できるよう道路を整えるとともに、公共交通の利用も促進します。	①高浜市地域公共交通会議を開催し、市内コースのバス停と刈谷市コースと市内コースの乗り継ぎの利便性を一部改善した。	H28.10～
	②舗装修繕工事（市道五間道路線）を行った。	H28.4～9
	③舗装修繕の測量および実施設計業務委託を行った。	H28.4～9
(3) 公園・緑地、街路樹や水辺空間などを地域の財産としてとらえ、地域と連携しながら、特性を活かした憩いの場づくりを進めます。	①公園施設長寿命化計画の委託を契約し、打合せを実施し計画策定の検討を進めた。	H28.4～ H29.3
	②公園・緑地、街路樹や水辺保全に関するまち協やNPO団体等の行事に参加し、活動を支援した。	H28.4～ H29.3
	③愛・道路パートナーシップへの支援を行った。	H28.4～ H29.3
参画・協働・ 情報共有の工夫	☆事業者、利用者等構成する地域公共交通会議にて運営方針を決定した。	
	☆金融機関から無利子で下水道接続工事資金の融資が受けられなくなる区域を 9 月 1 日号広報に掲載し普及促進をPR	
	☆整備区域の方を対象に下水道相談会を開催した。	

Ⅲ. 目標の達成状況と結果分析【CHECK】

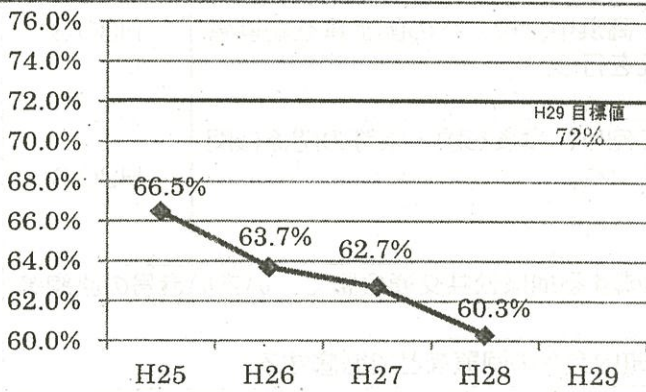
1. 市民意識調査結果

【設問】 調和の取れた土地利用が図られ、安全・快適で移動しやすいまちだと思う

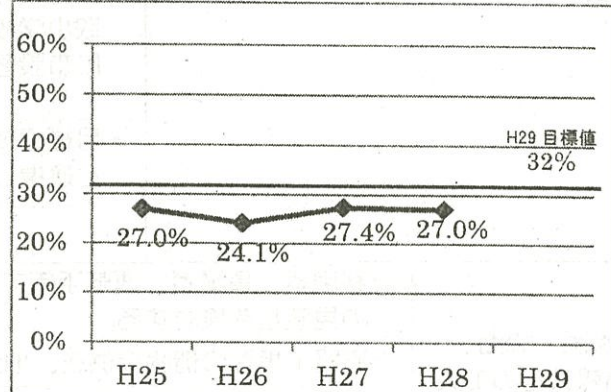


2. 「みんなで目指すまちづくり指標」の状況

1) 暮らしやすい環境が形成されていると感じている人の割合



2) 公園・緑地、街路樹や水辺空間づくりに参加したことがある人の割合



3. 「市民意識調査」「みんなで目指すまちづくり指標」結果に対する分析 (要因・課題等)

- 市民意識調査結果は、策定時と比べ 1.0%減少し、前年からは 2.6%の減となった。
- 「指標1」は、策定時から連続して低下している。「安全・快適で移動しやすいまち」及び「暮らしやすい環境の形成」における公共インフラ等の整備については、中長期にわたるため短期間で効果が表れにくい、計画的かつ着実に進めて行くことが大切である。
- 「指標2」は、前年より 0.4%減少した結果となった。「公園・緑地、街路樹や水辺空間づくりに参加したことがある人」を増やすためには、地道な活動・取組みにおいて時間軸を長くもち、地域のみならずと連携しながら活動の輪を広げていくことが有効である。

IV. 課題と今後の取組み【ACTION】

課題	課題解決に向けた新たな取組み（案） 見直し・改善（案）	いつまでに
<p><u>(1) 公園施設長寿命化計画の策定</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 公園施設長寿命化計画の策定に向け、委託業務による方向性の検討を行う。 高浜市公共施設総合管理計画に基づき、各個別施設の老朽度・劣化度を把握し、公共インフラ（道路、橋梁、公園、水道、下水道等）の長寿命化を進める必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 委託結果を受け、長寿命化に取組み、身近な施設として愛される公園を維持していく。 	H30.3
<p><u>(2) インフラ基盤の整備</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 老朽化などに伴う各舗装修繕工事・橋りょう修繕工事を迅速に行い、維持管理や施設づくりを通して、快適な居住空間の形成につなげる必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 対象路線の詳細設計を予算編成時期まで終了させ、確実な予算額としていく。 点検結果に基づく修繕工事に必要な詳細設計を行うと伴に、計画的な修繕工事を行う。 	H30.3
<p><u>(3) 着実な進捗と国・県との連携</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 公共下水道事業及び水道事業の推進にあたっては、長期的な観点に立ち計画的に事業を進めるとともに、計画協議や財政支援など、国・県との連携が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 高浜市公共下水道計画に基づき、計画的に汚水管の整備を行うとともに、水道事業の健全経営を考慮しながら事業を進める。 	H30.3
	<ul style="list-style-type: none"> 災害時の避難場所である、重要給水施設（高取小学校・高浜中学校）への配水管を耐震管に布設替えを行う。 	H30.3
	<ul style="list-style-type: none"> 目標達成に向け、今後も国・県等の関係機関と連携していく。 	H30.3
<p>参画・協働・ 情報共有の工夫</p>	<p>☆利用者、事業者、運転手等で構成する地域公共交通会議で、いきいき号の路線等の見直しを検討する。</p>	
	<p>☆道路工事等の情報提供を、地元町内会への回覧などで徹底する。</p>	
	<p>☆地域と連携した憩いの場づくりを進めるため、行事への参加を継続し、直接市民の声を聞くことでニーズを把握する。</p>	

V. 第6次高浜市総合計画推進会議による点検・確認結果【CHECK】

II. 目標達成のための主な取組み【DO】に関して

—

III. 目標の達成状況と結果分析【CHECK】に関して

—

IV. 課題と今後の取組み【ACTION】に関して

・遊具には老朽化が進んでおり危険なものもある。直す・取り換える・撤去するなどの作業を地域性も見ながら今後検討していただきたい。

その他、目標の達成に向けて

—

目標（9）

安全・安心が実感できる
地域づくりを進めます

I. 目指す姿【PLAN】

目標達成に 向けての考え方	近い将来に発生が予測される大震災に加え、集中豪雨・台風・火災などの災害、身近に起きる犯罪・交通事故から生命を守り、被害を最小限に食い止めるため、市民・地域・事業者・関係機関・行政がそれぞれの役割を果たしつつ、地域ぐるみで安全・安心に暮らせる環境を築いていきます。
目標が 達成された姿	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 市民一人ひとりの防犯や防災に対する意識が高まっています。 ◇ 「自助」「共助」「公助」を基本とした防災・減災対策、防犯・交通安全対策など、安全・安心を守る活動が地域ぐるみで行われています。 ◇ 誰もが安全で安心だと感じながら暮らしています。

II. 目標達成のための主な取組み【DO】

こんなことに取り組みます！	何を・どのように・どうした	いつ
(1) 市民・地域・事業者・関係機関と連携した総合的・機動的な防災体制を構築し、減災対策や実践を想定した取組みを強化します。	① 防災リーダー養成講座（基礎編・避難所編）を開催した。	H28.6～
	② 地域行動計画（避難行動チェックリスト）を全世帯に配布し、自宅から避難所までの避難行動の周知、市総合防災訓練での活用等を図った。	H28.8
	③ 吉浜小学校及び南中学校に防災備蓄倉庫を設置した。	H29.2～
(2) 防災教育や防犯講話などを通じて、「自らの安全は自ら守る（自助）」、「地域の安全は地域で守る（共助）」という意識を高める取組みを強化します。	① 防災専門官による市民団体等を対象とした防災講話を開催した。	H28.6～
	② 外国人向け防災訓練を開催した。	H29.2
(3) 「高浜市みんなで犯罪のないまちにしよう条例」をふまえて、地域・警察・関係機関と連携し、事件・事故の未然防止活動を推進します。	① 青色防犯灯パトロール（地域団体、委託業者）を実施した。	H28.4～
	③ 防犯灯などの防犯施設の維持・管理を実施した。	H28.4～
	④ 寄附により、防犯カメラ1台を設置した。（中部公園東交差点付近）	H28.12
(4) 市民一人ひとり、特に高齢者や子どもの交通事故防止に向けた取組みを進めます。	① 交通安全活動（一斉大監視、街頭啓発など）を実施した。	H28.4～
	② イベント時に交通安全誘導を実施した。	H28.4～
	③ 交通安全教室、交通安全講習会を開催した。	H28.4～
参画・協働・ 情報共有の工夫	☆まちづくり協議会の防災グループ会議など地域防災に関する各種会議や行事等に職員も積極的に参加し、地域住民への情報提供・情報共有を図り、協働して防災・減災対策を推進した。	

Ⅲ. 目標の達成状況と結果分析【CHECK】

1. 市民意識調査結果

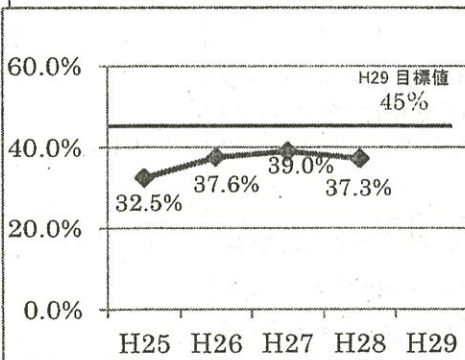
【設問】安全・安心が実感できる防災・防犯対策が進められているまちだと思う

現状値 (H25)	実績値 (H26)	実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	動向
56.3%	55.5%	56.8%	57.7%		◎

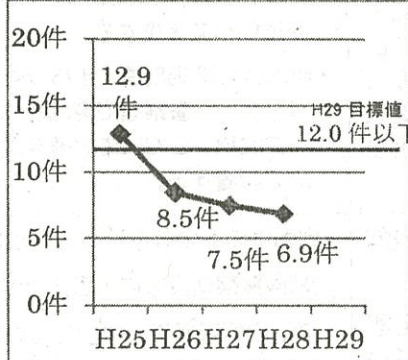
性別	年齢別	回答内容				n	現状値
		そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない		
全体		55.5	32.1	11.3	5.1	856	57.7
男性		50.0	48.2	17.3	5.9	338	53.2
女性		58.8	54.5	31.0	6.3	504	60.4
	10歳代	14.3	57.1	21.4	7.1	14	71.4
	20歳代	4.7	54.7	32.8	7.8	64	59.4
	30歳代	2.9	48.4	40.5	7.3	126	51.6
	40歳代	5.9	46.7	35.5	7.9	152	54.6
	50歳代	0.7	59.9	29.9	7.5	147	60.6
	60歳代	6.1	50.3	35.4	4.8	165	56.4
	70歳以上	9.5	51.4	29.4	5.8	177	61.0

2. 「みんなで目指すまちづくり指標」の状況

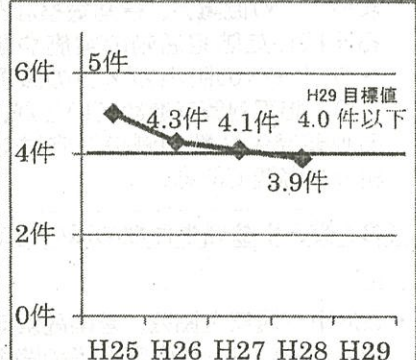
1) 自分自身が災害（地震や風水害など）への備えができていると思う人の割合



2) 人口1,000人あたり犯罪発生件数



3) 人口1,000人あたり交通事故発生件数



3. 「市民意識調査」「みんなで目指すまちづくり指標」結果に対する分析（要因・課題等）

- 「指標1」は、策定時（H25）より年々増加していたが、昨年度（H28）は対前年1.7%の減少となった。10代・20代の若者の数値が大きく増加した半面、30代から50代、70代以上の数値が減少した。10代・20代の増加の理由としては、小学校で取り組んでいる防災学習や市民団体が実施している中学生防災・減災アカデミー等の活動によるものと分析する反面、全国各地で大規模な自然災害が発生しているものの、この地域では幸い発生がないことなども影響し、市民全体の防災意識の低下に繋がっているのではないかと分析している。
- 「指標2」及び「指標3」は年々減少しており、地域住民や関係団体等と連携した積極的な活動によるものと分析している。

Ⅳ. 課題と今後の取組み【ACTION】

課題	課題解決に向けた新たな取組み(案) 見直し・改善(案)	いつまでに
<p>(1) 「自助」「共助」に基づく地域防災力の強化</p> <p>・大規模な地震や風水害等に備えるためには、市民一人ひとりが「自助」「共助」を意識した防災・減災対策に積極的に取り組む必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・防災メールや広報等を通じ、市や町内会等が実施する防災訓練等への参加を呼びかける。 ・平成27年度より実施している地域防災リーダー養成講座(基礎編)に加え、“フォローアップ編”を新たに開催し、リーダーの育成・レベルアップを図る。 ・平成28年度、全世帯に配布した避難行動チェックリストについて、地域(学区)の実情に即した実効性の高い内容とするため、地域住民の意見を聞きながら、小学校区単位でチェックリストの見直しを図る。 ・町内会未加入世帯への防災対策として、年2回のごみ袋配布時にチラシを配布し、自主防災組織の要となる町内会への加入、「自助」「共助」に基づく平常時からの防災への取り組みを促す。 ・事業者に対しアンケート等を実施し現状を把握する中で、事業者も含めた地域防災ネットワークの構築を図る。 	<p>H30.3</p> <p>H30.3</p> <p>H30.3</p> <p>H30.3</p> <p>H30.3</p>
<p>(2) 犯罪発生件数の減少対策の強化</p> <p>・高浜市防犯ネットワーク会議、町内会、まちづくり協議会、碧南警察などによる連携した防犯活動の実施や駅前ロータリーへの防犯カメラの設置等により、防犯対策を進めているが、更なる犯罪発生件数の減少に向けた取り組みが必要である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・まちづくり協議会等による青色防犯パトロールや委託業者による夜間パトロール(午後10時～午前4時)を継続して実施する。 ・町内会の防犯部長、まちづくり協議会の防犯グループリーダー、警察等で構成される「高浜市防犯ネットワーク会議」において調整を重ね、防犯カメラ4台を新たに設置する。 	<p>H30.3</p> <p>H30.3</p>
<p>(3) 交通事故発生件数の減少対策の強化</p> <p>・高浜市交通安全協会、碧南高浜安全運転管理協議会、碧南警察等の関係者が連携して交通安全対策に取り組んでいるが、更なる交通事故発生件数を減らすためには、規制が強化された自転車運転者や交通事故の半数以上を占める高齢者に対する交通安全対策を進めていくことが必要である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自転車の安全な乗り方対策として、高浜市交通指導員、碧南警察署員等による全小学校での自転車教室の実施、自転車通学の中学生等に対する個別指導やチラシ等の配布、自転車シミュレータを活用した自転車の安全運転講習の実施、碧南高浜安全運転管理協議会が主体となった従業員に対する自転車の安全利用の促進等を実施する。 ・高齢者が加害者となる事故が全国各地で多発していることから、運転免許証を自主返納した高齢者への支援を関係団体と連携して実施する。 ・いきいきクラブ会員の集まりや高齢者グラウンドゴルフ大会等において、交通安全に関する講話等を実施する。 	<p>H30.3</p> <p>H30.3</p> <p>H30.3</p>
<p>参画・協働・ 情報共有の工夫</p>	<ul style="list-style-type: none"> ☆まちづくり協議会の防災部会等に積極的に参加し、協働しながら防災・減災対策を進める。 ☆市民一人ひとりに正確な情報を迅速に提供できるよう、愛知県警が配信するメールシステム「パトネットあいち」への登録を呼びかけていく。 	

V. 第6次高浜市総合計画推進会議による点検・確認結果【CHECK】

II. 目標達成のための主な取組み【DO】に関して
—
III. 目標の達成状況と結果分析【CHECK】に関して
<ul style="list-style-type: none">・ 犯罪発生件数と交通事故発生件数の減少は、行政の取り組みだけでなく、地域力があってこそその減少である。ここ数年で地域力が付いてきているということは間違いない。
IV. 課題と今後の取組み【ACTION】に関して
<ul style="list-style-type: none">・ 運転免許証の自主返納に対する支援をすることでさらなる交通事故の減少が見込まれると思うので今後も支援をお願いしたい。・ 企業の間を行政がとりもっていただき、企業を含めた災害時の体制づくりが必要になってくる。・ 地域防災力の強化のため事業者も含めたネットワークを構築するとあるが、事業者自体の防災力を高めることは最も重要であるが、その指導とともに災害発生時に各事業者がまちに対してどのような協力ができるかも把握しておくことも必要と思う。
その他、目標の達成に向けて
—

目標（10）

一人ひとりを認め合い、その人らしく 暮らせるまちづくりを進めます

I. 目指す姿【PLAN】

目標達成に向けての考え方	少子高齢化や核家族化の進展により、地域の中で孤立する人が増えています。また、今後、認知症高齢者の増大や障がい者の生活の場の不足といった課題の発生が予測されます。地域・事業者・関係機関と連携して、誰もが住み慣れた地域で、その人らしく、安心して、いきいきと暮らせる環境を築いていきます。
目標が達成された姿	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 多くの市民の方が、地域での支え合いの担い手として活躍しています。 ◇ 障がい者の社会参加の機会が増え、地域住民とのふれあいの光景が見られます。 ◇ 子どもから高齢者まで、障がい者も含め、誰もが認められ、地域でともに支え合い、その人らしく、いきいきとした生活を送っています。 ◇ 支援を必要とする人に対して、ニーズに応じた適切な相談支援やサービス提供が実施されています。

II. 目標達成のための主な取組み【DO】

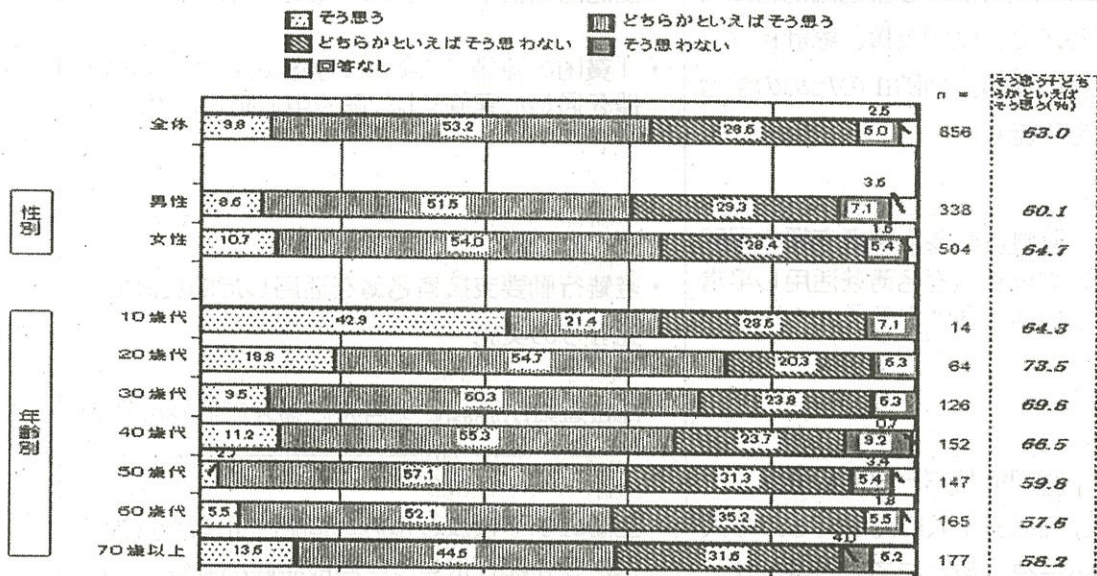
こんなことに取り組みます！	何を・どのように・どうした	いつ
(1) 地域福祉に対する理解を 広め、困りごとを抱える方 の支援などを行うボラン ティアの発掘・養成や、継 続的に活動できる場を創 出します。	① 認知症サポーター養成研修を実施した。 (吉浜公民館祭、高浜高校、刈谷豊田総合病院高浜分院、市 内小学校等)	H28.6 H29.3
	② キャラバンメイト連絡協議会を開催し、認知症サポータ ーを養成するための具体的な計画、今後の進め方につい て協議した。	H28.8～ H29.3
(2) 障がい者が地域の中で交 流できる場や活動機会を 創出します。	① 障害者差別解消法の講演会を実施した。(職員、事業所等)	H28.7
	② 第3回たかはまボッチャ競技大会を開催した。	H28.11
(3) 判断能力が不十分な人の 権利や生活を守るため、権 利擁護センターを設置し、 適切な相談・支援が行える 体制を整えます。	① 専門相談を実施した。	通年
(4) こども発達センターを充 実し、子どもとその家族を より確かな形で支えます。	① 3専門職による相談支援を継続して行った。	H28.4
	② 専門家チームとして幼稚園・保育園・小学校に加え、中学 校への巡回指導を実施した。	H28.7
(5) 育児・介護・健康・生活困 窮など、不安を抱えた方へ の総合的な相談支援体制 を整えます。	① 子ども健全育成支援員を増員し、家庭訪問の取組を強化	H28.4
	② こども食堂支援基金を設置し、広く寄付を募集	H28.4
(6) 高齢者の地域密着型施設や 障がい者施設を、民間活力 の導入により整備します。	① 夏休み障がい学童保育支援事業を実施した。	H28.7・8
	② 障がい児通所施設の開設に向けた支援を行った。	H28.4～
(7) 災害時に備え、要援護者の 実態把握と地域ぐるみの 支援体制を構築します。	① 各小学校区において、要支援者名簿を活用した見守り・ 防災訓練について検討した。	H29.1～
	② 平成27年度に締結した福祉避難所への防災資機材配備	H28.7
参画・協働・ 情報共有の工夫	☆ボッチャの普及啓発は、当事者団体、まちづくり協議会、社会福祉協議会など関係 機関が協働して実施する。	

Ⅲ. 目標の達成状況と結果分析【CHECK】

1. 市民意識調査結果

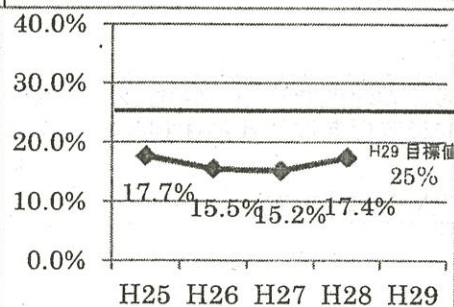
【設問】一人ひとりが認め合い、高齢者や障がい者などがいきいき暮らすことができるまちだと思う

現状値 (H25)	実績値 (H26)	実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	動向
59.4%	60.8%	62.3%	63.0%		◎

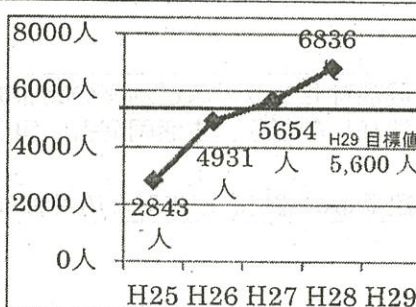


2. 「みんなで目指すまちづくり指標」の状況

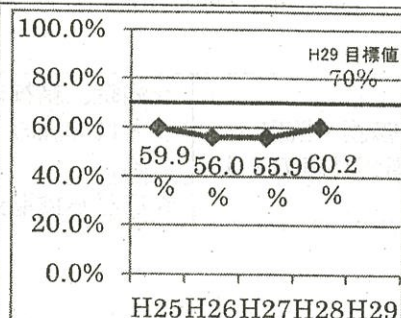
1) 地域福祉に関するボランティア活動に参加したことがある人の割合



2) 認知症サポーターの人数



3) 地域包括支援センターを知っている人の割合



3. 「市民意識調査」「みんなで目指すまちづくり指標」結果に対する分析 (要因・課題等)

- ・「市民意識調査」結果は、前回 1.5%増、今回 0.7%増で順調に伸びている。今回、20歳代～60歳代で増加傾向を示しており、高齢者施策だけでなく、子どもや障がい者等の各種施策を着実に進めてきた成果と考えられる。引き続き、各種施策を着実に実施していく。
- ・「指標1」は、今回、増となった。各地でボランティアが活躍している姿を見る。延べ人数、実人数とも増加となったと推測する。地域の活性化だけでなく、団体の維持のためにも、協力者の実人数を増やし、裾野を広げる取組みを進めて行く。
- ・「指標2」は、前回、今回とも増。養成講座の実施により、着実に増加している。
- ・「指標3」は、今回、増となった。いきいき広場の相談支援体制は年々充実してきており、認知度が増加した。迅速な相談につなげるために、周知を行っていく。

Ⅳ. 課題と今後の取組み【ACTION】

課題	課題解決に向けた新たな取組み（案） 見直し・改善（案）	いつまでに
<p><u>(1) 生活困窮世帯への対応</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 多様な課題を抱える生活困窮者に対応するため、就労支援、家計相談、「貧困の連鎖」の防止のための学習支援を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 生活困窮世帯への就労支援の強化 「貧困の連鎖」の防止の強化のため、学習支援を通じた家族支援、高校中退防止に努める。 	H30.3
<p><u>(2) 避難行動要支援者支援の展開</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 避難行動要支援者名簿を活用し平時からの備えを強化する。 	<ul style="list-style-type: none"> 避難行動要支援者名簿を活用した防災訓練、見守りの実施 福祉避難所施設と災害時に備えた訓練の実施 	H30.3
<p><u>(3) 認知症サポーターの養成</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 認知症高齢者1人に対して5.5人のサポーター数となるよう養成する。 	<ul style="list-style-type: none"> 全ての小学校及び市内の商店・企業を対象にした認知症サポーター養成研修の継続 養成された認知症サポーターが様々な場面で活躍できるような仕組みづくり 	H30.3
<p>参画・協働・ 情報共有の工夫</p>	<p>☆病院、精神保健福祉センターなど地域の関係機関との連携をさらに強化し、それぞれの強みを活かしながら、生活困窮者に包括的な支援を提供する体制を構築する。</p>	
	<p>☆こども食堂支援基金の寄付など市民が広く参画できる取組を推進する。</p>	

V. 第6次高浜市総合計画推進会議による点検・確認結果【CHECK】

II. 目標達成のための主な取組み【DO】に関して

—

III. 目標の達成状況と結果分析【CHECK】に関して

—

IV. 課題と今後の取組み【ACTION】に関して

・避難行動要支援者の名簿については、町内会やまち協は担い手が少なくなっているため、もっと町内会などに入会しやすくなるよう、行政の協力が不可欠である。町内会が機能しなくなれば要支援者の部分ができなくなってくると思う。

その他、目標の達成に向けて

—

目標（11）

一人ひとりの元気と
健康づくりを応援します

I. 目指す姿【PLAN】

目標達成に向けての考え方	健やかで心豊かに生活していくためには、何よりも健康であることが大切です。一人ひとりが健康の大切さを自覚し、日々、健康づくりを意識した生活を送れるよう、個人の健康を支援するための環境づくりを進めていきます。
目標が達成された姿	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 一人ひとりが自身の健康状況を把握し、健康づくり活動に積極的に参加しています。 ◇ 医療、介護、予防、生活支援の連携体制（地域包括ケア）が構築されています。 ◇ 誰もが住み慣れた地域や家庭で健康に暮らしています。 ◇ 健康づくりに取り組む人と応援する人が増加しています。

II. 目標達成のための主な取組み【DO】

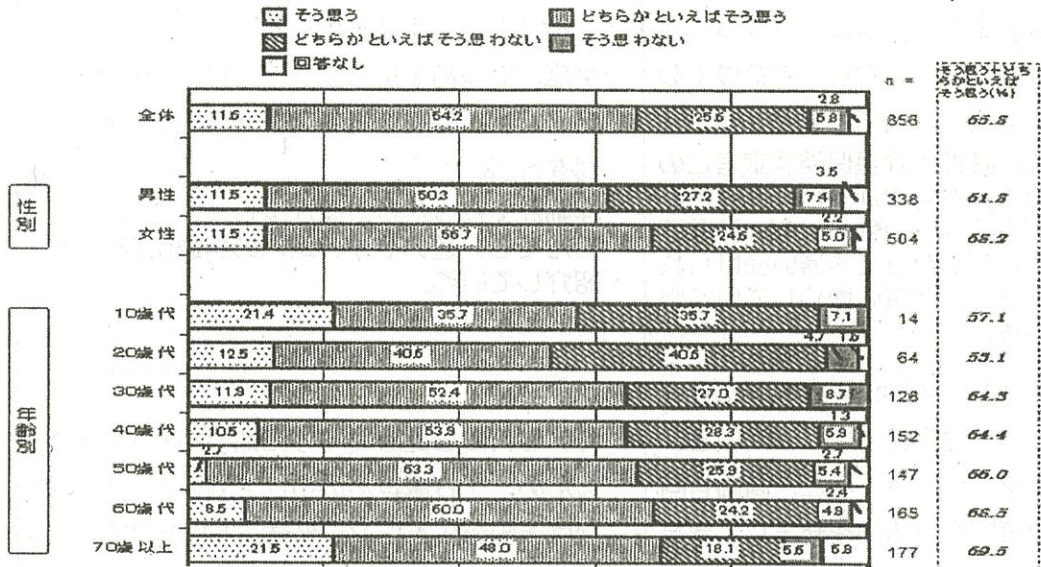
こんなことに取り組みます！	何を・どのように・どうした	いつ
(1) 高齢者の閉じこもり予防、外出の機会となる居場所づくりと、担い手としての活躍の場を創出する生涯現役のまちづくりを進めます。	① でいでーるで、読者アンケートを開始した。	H28.4～
	② 健康自生地が集まる「健康自生地フェスタ」を開催した。	H28.8
	③ ホコタッチを使い、健康自生地へ出かけたくなる仕組みとして訪問ポイントの付与を開始した。	H28.10～
(2) 今後、増加が予測される認知症に対応するため早期発見、早期支援を重点的に行う初期集中支援体制を構築します。	① 機能健診「脳とからだの健康チェック」を実施した。	H28.4～6
	② 「脳とからだの健康チェック」結果説明会を開催した。	H28.4、7
(3) 運動機能や認知機能など市民一人ひとりのライフステージやニーズに応じた多様な健康づくり、介護予防や認知症予防のプログラムを構築します。	① 認知症予防に効果的な「コグニサイズ教室」を始めた。	H28.5～
	② いきいき健康マイレージ健康づくり応援ポイントを実施した。	H28.4～
	③ 認知症予防に効果的なトレーニング機器「コグニバイク」を導入した。	H28.11
(4) 多様な医療ニーズに対応するため、かかりつけ医と病院の病診連携の促進により地域医療を充実します。	① 医科・歯科休日当番医の実施と市民へのPRを行った。	H28.4
	② 病院群輪番制による2次医療救急体制を確保した。	H28.4
	③ 定住自立圏共生ビジョンに基づき地域医療ネットワークの運用を行った。	H28.4
参画・協働・情報共有の工夫	<p>☆健康自生地は地域の人々が主体的に運営しており、行政は積極的に現場へ足を運びとともに、情報の発信やイベント企画、立ち上げ補助を実施することで応援している。</p> <p>☆主な情報発信は、高齢者になじみやすい紙媒体を用い、写真を多く掲載するなど、楽しく親しみやすい誌面を作るとともに、ホコタッチの使い方や健康自生地マップなど、便利な保存版となるような特集を掲載している。</p>	

Ⅲ. 目標の達成状況と結果分析【CHECK】

1. 市民意識調査結果

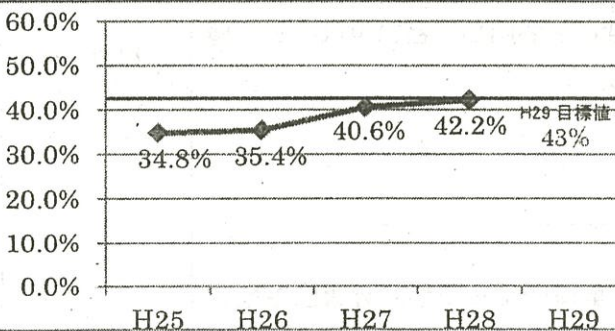
【設問】一人ひとりの元気と健康づくりを応援しているまちだと思う

現状値 (H25)	実績値 (H26)	実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	動向
57.9%	60.4%	67.6%	65.8%		△

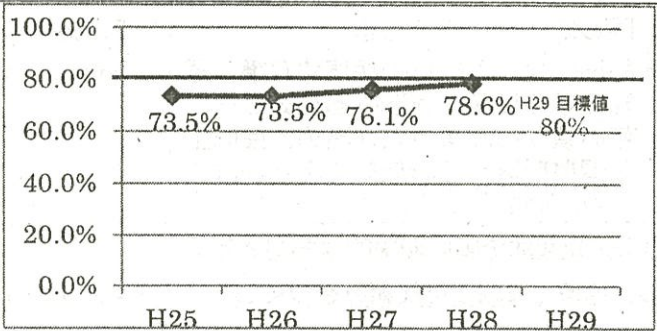


2. 「みんなで目指すまちづくり指標」の状況

1) 日常的に運動やスポーツを行っている人の割合



2) かかりつけ医を持っている人の割合



3. 「市民意識調査」「みんなで目指すまちづくり指標」結果に対する分析 (要因・課題等)

- 「指標1」は、「健康自生地」や「いきいき健康マイレージ」、「マシンスタジオ」での認知症予防に効果的な教室の開催など、楽しく健康づくり活動に取り組んだり、興味を持ってもらえるよう工夫してきた結果であると考えられる。
- 「指標2」は、啓発パンフレットなどを配布し、地域医療ネットワークをより多くの市民に知っていただいたことにより、病院と診療所の役割が明確になった結果であると考えられる。
- 市民意識調査では、若い世代の数値が低くなっている。今後は、若い世代から健康意識を高め、健康づくりに取り組んでもらえるような仕組みが必要である。

Ⅳ. 課題と今後の取組み【ACTION】

課題	課題解決に向けた新たな取組み（案） 見直し・改善（案）	いつまでに
<p><u>(1) 高齢者の居場所及び生きがいがいつく りの充実</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 「健康自生地」の認定が始まって3年が経過したことから、数だけでなく、質の向上を図る必要がある。 元気な高齢者と介護保険認定者との狭間の高齢者や体が少し弱ってきた高齢者などでも通いやすい居場所や、年齢が上がっても通い続けられる居場所を、地域に増やしていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 認定後1年以上経過した健康自生地の再審査に加え、担い手や利用者向けのアンケートの実施、健康自生地スタンプラリーの参加状況の分析などから、実態調査や課題解決策の検討を行う。 年齢が上がったり、体が少し弱ってきた方でも、通いやすい地域の居場所を創出、紹介していく。 	H30.3
		H30.3
<p><u>(2) 若い世代の健康づくり活動の促進</u></p> <ul style="list-style-type: none"> これまで「健康自生地」や「いきいき健康マイレージ」など、高齢者向けの健康づくり活動を充実してきたが、若い世代は、仕事や子育てなどに追われ、自身の健康状態の確認や健康づくりのための取組みなどは後回しになりがちである。 高齢になってからの疾病や介護、認知症等のリスクを下げるためにも、若い頃から健康意識を高め、良い生活習慣を送っていただくきっかけづくりが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 若い世代から健康づくりに取り組んでいただくため、18歳以上の市民を対象とした「たかはま健康チャレンジ事業」を開始する。 高齢者に限定しない健康づくり応援制度として、平成29年度から実施している「たかはま健康チャレンジ事業」を、ホームページやFacebookなどを活用し、若い世代にも積極的にPRする。 	H30.3
		H30.3
<p><u>(3) 認知症予防に効果的な活動を分析し、地域で実践する仕組みをつくる</u></p> <ul style="list-style-type: none"> これまで収集したデータを基に、認知症予防に効果的な活動を研究し、認知症予防事業を構築する必要がある。 地域全体で認知症の人々を支えるため、地域と連携した支援体制を構築し、人材の発掘、育成を進めていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 脳とからだの健康チェックや、健康自生地をフィールドにした研究の分析を行い、どのような活動を実践することが、認知症予防に効果があるのかを検証する（効果測定）とともに、効果的な活動を広くPRする。 認知症予防に効果のある活動をさまざまな地域で実施し、多くの市民に参加してもらえるような仕組みを構築する。 「脳とからだの健康チェック」のスタッフとしての実践を通して、能力向上を図り、地域で活躍できる人材を養成する。 	H30.3
		H30.3
		H30.3
<p>参画・協働・ 情報共有の工夫</p>	<p>☆新たな制度「たかはま健康チャレンジ事業」について、従来のいきいき健康マイレージ事業参加者である高齢者以外の層にも参加していただけるよう、広報だけでなく、Facebookなどを活用した周知や、ポイント交換の特典の充実を図る。</p> <p>☆「でいでーる」の編集にあたり、市民の方の声を拾いながら特集記事を検討することで、市民目線で必要とされている情報や、地域の方ならではの情報を発信する。</p>	

V. 第6次高浜市総合計画推進会議による点検・確認結果【CHECK】

Ⅱ. 目標達成のための主な取組み【DO】に関して

—

Ⅲ. 目標の達成状況と結果分析【CHECK】に関して

・意識調査で高齢者になるほど指標が良くなっているのは「脳とからだの健康チェック」等の取組に力を入れてきた成果だと思われる。

Ⅳ. 課題と今後の取組み【ACTION】に関して

・自分で健康に関する目標を決め、検診等を行い、それを記録して提示すると「まいか」や「入浴優待券」を渡すなど、比較的若い人も巻き込むための取組みは今後も充実されたい。

その他、目標の達成に向けて

—

〈指標の分析について〉

- 指標が下降傾向にあるが、これは市民側に慣れが出てきているからであると思う。施策に大きな変化が出ていないから伸びていないのであり、数年前は大きな変化があったということである。悲観する必要はないと感じている。

〈参画・協働について〉

- まちづくりに参加意欲の高い（意識の高い）市民の見つけていく、新規開発して置くことが行政のこれからの役割であると感じている。各部局・分野ごとに競って増やしていくことこそが、参画協働の本質である。参画協働というのはアリバイではない。アリバイづくりだと思えば情報公開していたら失敗する。